

A工区地質記載シート

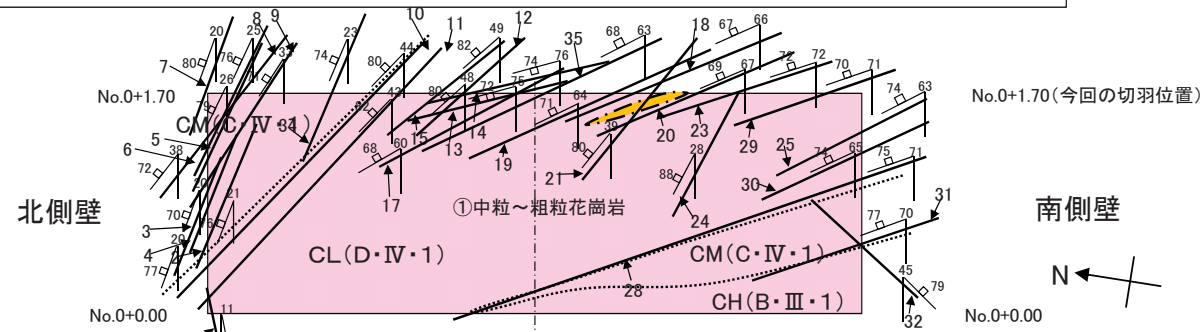
A5-請負-計測工(地質)-130115

シート番号	57mボーリング グ東横坑1	日時	2013/1/15 15:30~17:00	位置・深度	57mボーリング東横坑1 G.L. -496.5 m~G.L. -500.2 m	観察・撮影者	
-------	-------------------	----	--------------------------	-------	---	--------	--

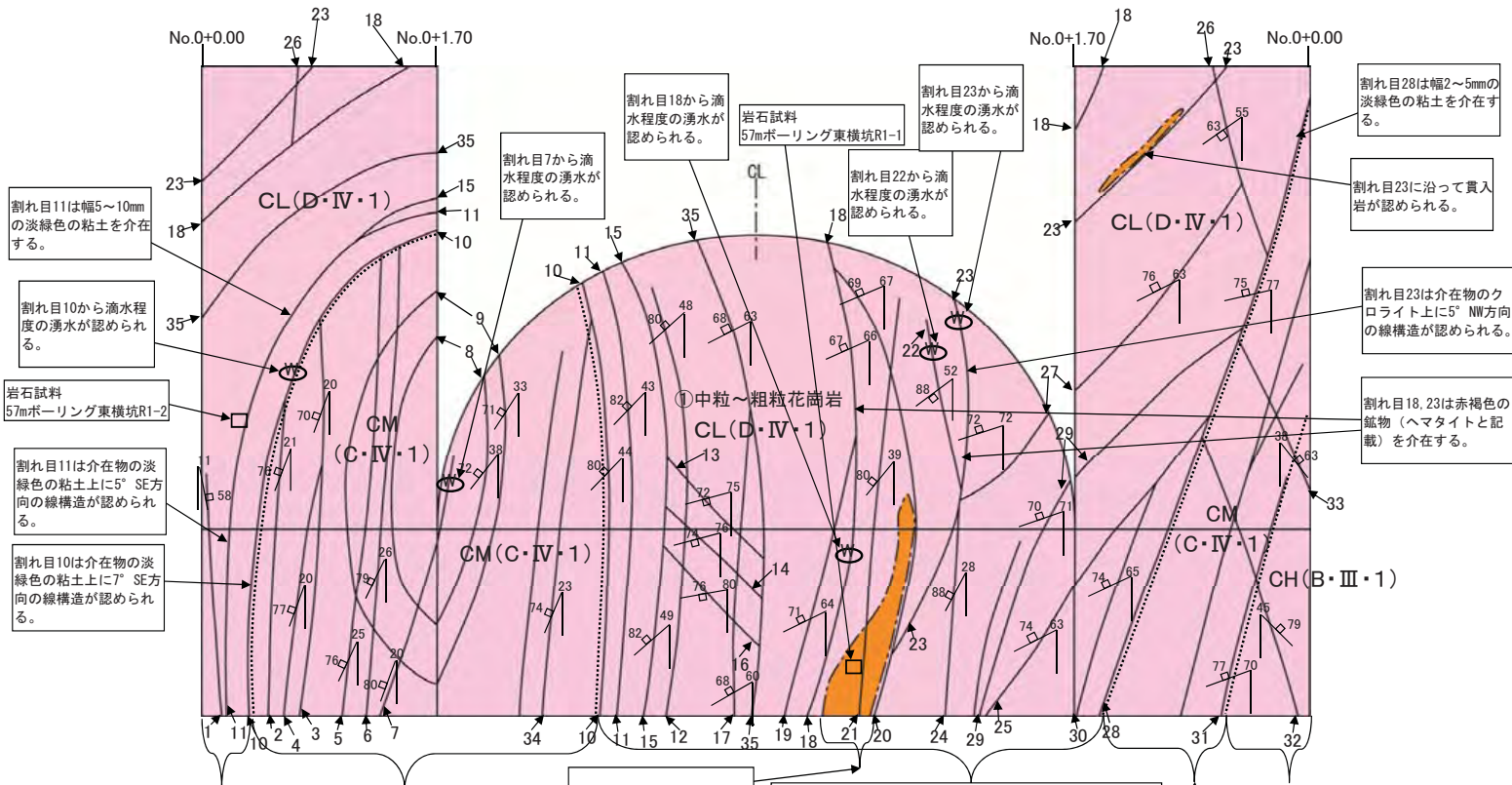
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

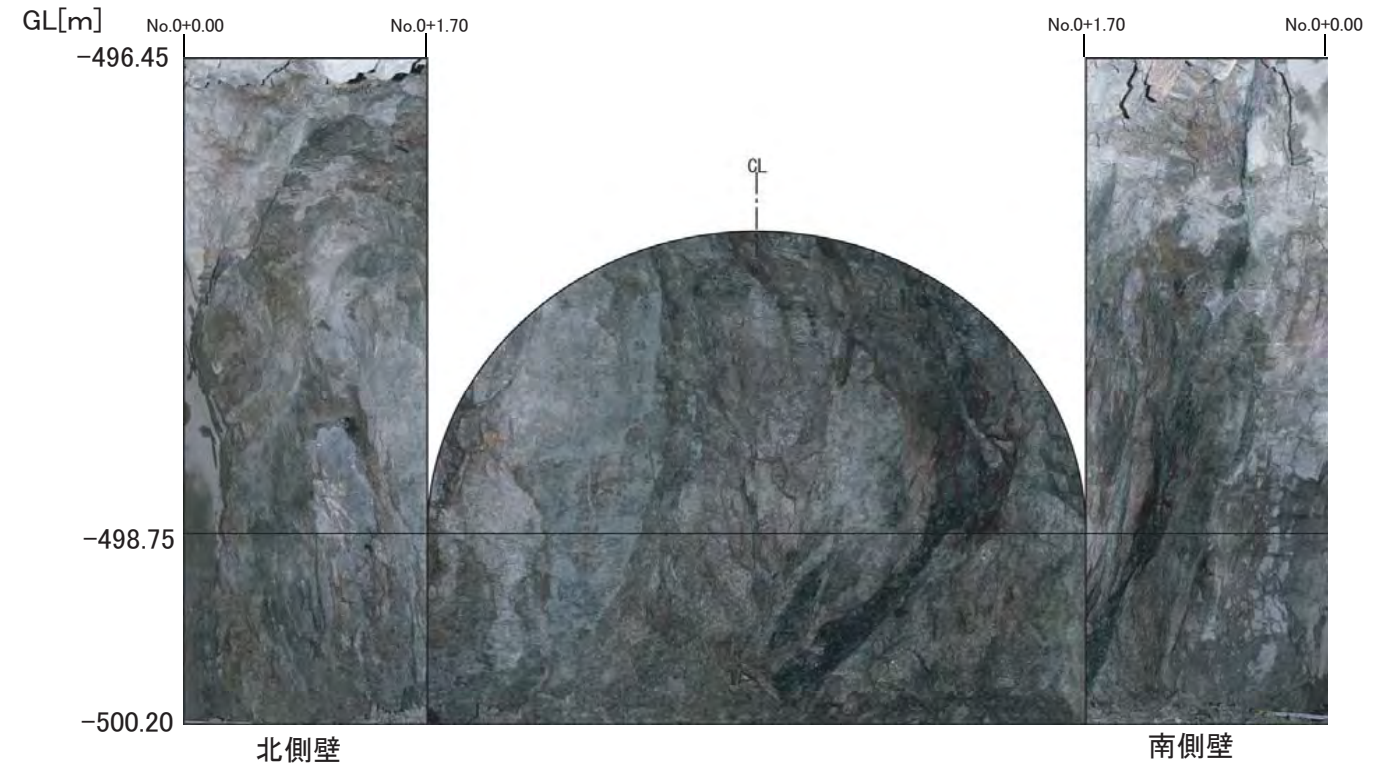
凡例	花崗岩	貫入岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水
----	-----	-----	-----	----------	--------	----



スライス断面図



スケッチ



可視画像



NW走向高角度北傾斜の割れ目が3~5cm程度の間隔で認められる。他に、NE走向中角度南傾斜の割れ目1が認められる。割れ目は淡緑色の粘土を介在する。花崗岩の変質の程度は中~強く、半数以上の有色鉱物がクォーライトに置き換わる。カリ長石は橙色を呈し、そのため花崗岩は全体に橙色を呈する。ハンマーの打撃で濁った音を発する程度の硬さ。

WNW走向高角度北傾斜の割れ目が6~10cm程度の間隔で認められる。割れ目にはカルサイトとクォーライト、淡緑色の粘土を介在する。花崗岩の変質の程度は中程度で、黒雲母などの有色鉱物の半数以上がクォーライトに置き換わる。カリ長石は橙色を呈する。ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さ。

暗灰色の貫入岩。鉱物のサイズは極細粒で肉眼で確認出来ない。花崗岩との境界はシャープで明瞭である。

WNW~NW走向高角度北傾斜の割れ目が6~10cm程度の間隔で認められる。他に、NNW走向高角度西傾斜の割れ目13, 14, 16, 22が認められる。割れ目にはクォーライト、淡緑色の粘土を介在する。花崗岩の変質の程度は強く、黒雲母などの有色鉱物は概ねクォーライトに置き換わっている。花崗岩は全体に淡緑色を呈する。ハンマーの打撃で濁った音を発する程度の硬さ。

NE走向高角度東傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で認められる。花崗岩に変質はほとんど認められず、有色鉱物は概ね残存している。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NW走向高角度北傾斜の割れ目が6~20cm程度の間隔で、NE走向高角度東傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で認められる。割れ目には淡緑色の粘土を介在する。花崗岩の変質の程度は中程度で、黒雲母などの有色鉱物の半数以上がクォーライトに置き換わる。カリ長石は橙色を呈する。ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さ。

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -496.45m~-498.95m CH/CM/CL G.L. -498.95m~-500.2m CH/CM/CL
岩相	①中粒~粗粒花崗岩(淡桃色、橙色、淡褐色、淡緑色) ②貫入岩(暗灰色)	RMR値	G.L. -496.45m~-498.95m 24 G.L. -498.95m~-500.2m 24
風化	α	岩石試料番号	57mボーリング東横坑R1-1(花崗岩), 57mボーリング東横坑1-2(花崗岩)
変質	1~4	採水試料番号	-
湧水	滴水		

特記事項

当箇所は57mボーリング東横坑であり、掘進方向はN81°E方向である。横坑観察は切羽から1.7m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩の変質は、割れ目10から割れ目28の間は程度が中~強く、有色鉱物の半数以上がクォーライトに置き換わる。カリ長石は淡褐色を呈する。割れ目10から北側と割れ目28から割れ目31までは、中程度の変質により、有色鉱物の半数以上がクォーライトに置き換わりカリ長石は橙色に変色し、花崗岩は全体に橙色を呈する。割れ目31から南西側は変質はほとんど認められず、花崗岩は淡桃色を呈する。割れ目の走向傾斜は、割れ目10から北側では、WNW走向高角度北傾斜が主体で間隔で認められる。割れ目10と割れ目28の間は、WNW~NW走向高角度北傾斜が主体で、他にNNW走向高角度西傾斜が認められる。

割れ目28から南西側の割れ目の走向傾斜は、NW走向高角度北傾斜とNE走向高角度東傾斜が認められる。割れ目10, 11, 23は割れ目介在物に線構造が認められることから、せん断割れ目と判断した。割れ目の介在物は、カルサイトとクォーライト、淡緑色の粘土が認められる。湧水は北側壁の割れ目10と鏡中央下部の割れ目18と鏡右側上部の割れ目22, 23から滴水程度で認められた。岩級区分は、割れ目31から南西側では、割れ目間隔が20~30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・III・1)級と評価した。割れ目10から北側と割れ目28から割れ目31の間は、割れ目間隔が6~20cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることから、CM(C・IV・1)級と評価した。割れ目10から割れ目28の間は、割れ目間隔が6~10cm程度で、ハンマーの打撃で濁った音を発する程度の硬さであることから、CL(D・IV・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

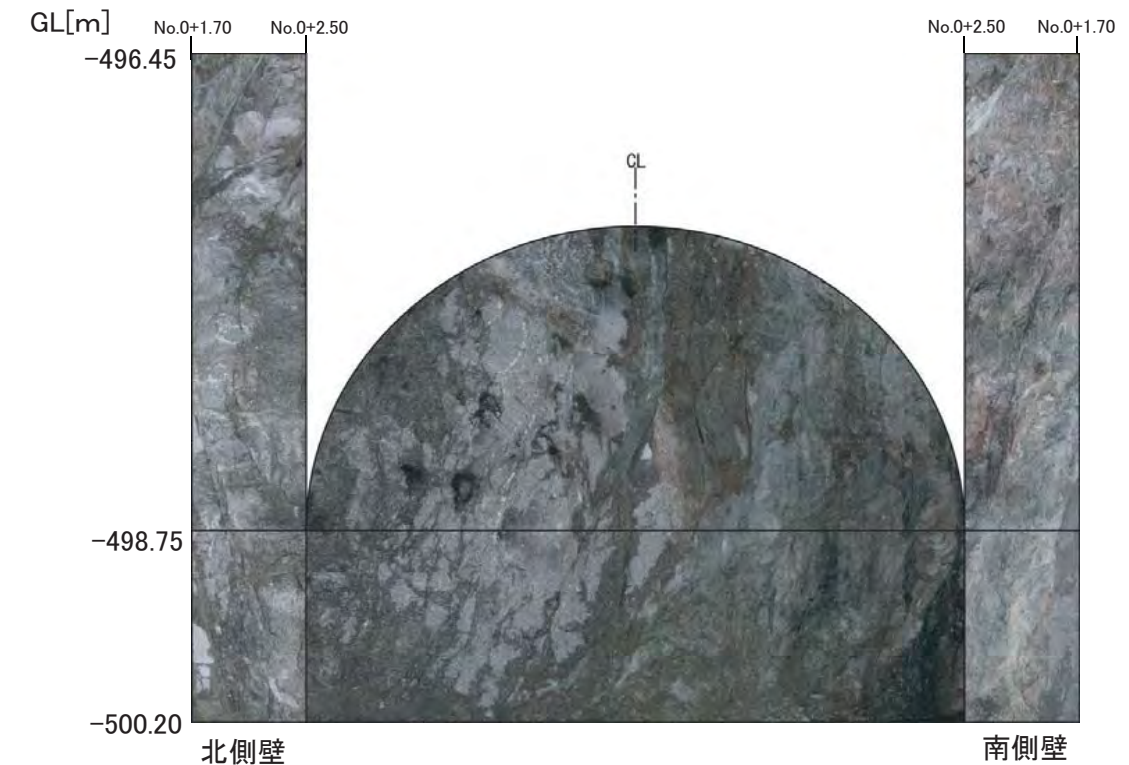
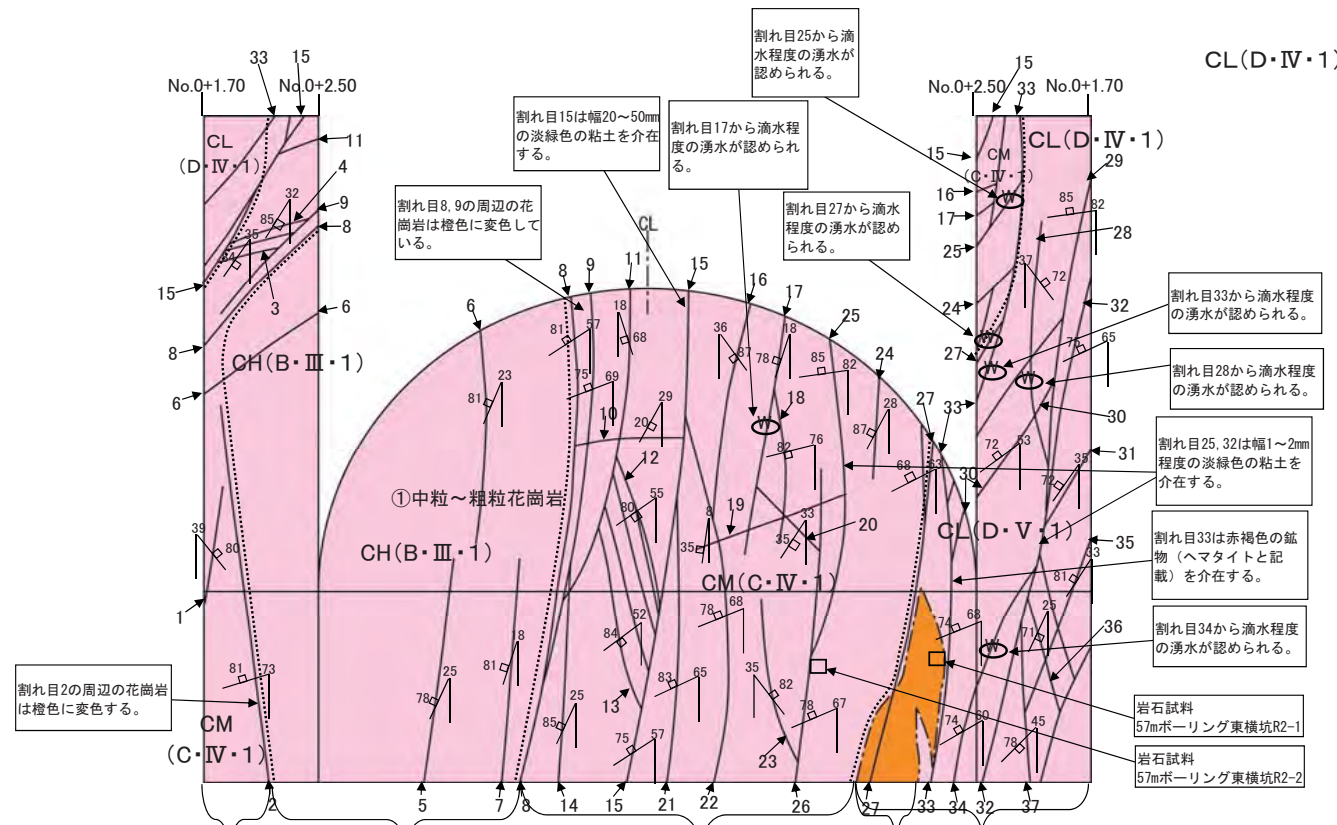
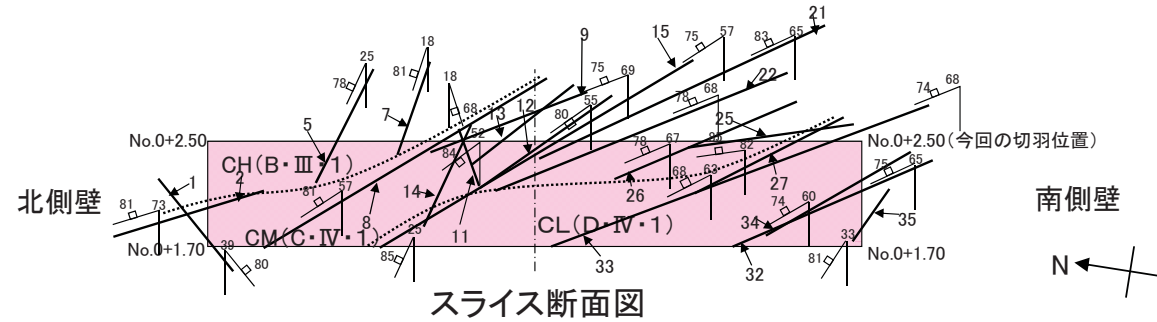
A5-請負-計測工(地質)-130117

シート番号	57mボーリング東横坑2	日時	2013/1/17 10:30~11:30	位置・深度	57mボーリング東横坑2 G.L. -496.5 m~G.L. -500.2 m	観察・撮影者	
-------	--------------	----	--------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	貫入岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水
----	-----	-----	-----	----------	--------	----



可視画像



NE走向高角度東傾斜の割れ目が認められる。花崗岩の変質は中程度で、半数程度の有色鉱物がクロライトに置き換わる。カリ長石は橙色を呈し、そのため花崗岩は全体に橙色を呈する。ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さ。

WNW走向高角度北傾斜と南傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で認められる。割れ目にはクロライトとカルサイトを介在する。割れ目にはカルサイトとクロライト、淡緑色の粘土を介在する。花崗岩に変質はほとんど認められず、黒雲母などの有色鉱物は概ね残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NW~WNW走向高角度東~北傾斜とNW走向高角度西~南傾斜の割れ目の割れ目が6~10cm程度の間隔で認められる。他にNE走向高角度北傾斜の割れ目11, 16とNW走向低~中角度西傾斜の割れ目10, 20, EW走向中角度北傾斜の割れ目19やNE走向高角度南傾斜の割れ目23が認められる。割れ目にはカルサイトとクロライト、淡緑色の粘土を介在する。花崗岩の変質の程度は中程度で、黒雲母などの有色鉱物の半数以上がクロライトに置き換わる。カリ長石は橙色~淡褐色を呈する。ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さ。

NW~WNW走向高角度北~東傾斜の割れ目が3~5cm程度の間隔で認められる。他に、NE走向高角度東傾斜の割れ目28やNW走向高角度東~南傾斜の割れ目29, 37が認められる。割れ目にはクロライト、カルサイト、淡緑色の粘土、赤褐色の鉱物(ヘマタイトと記載)を介在する。花崗岩の変質の程度は中程度で、黒雲母などの有色鉱物の半数以上がクロライトに置き換わる。カリ長石は橙色を呈する。ハンマーの打撃で濁った音を発する程度の硬さ。

暗灰色の貫入岩。鉱物のサイズは極細粒で肉眼で確認出来ない。花崗岩との境界はシャープで明瞭である。

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -496.45m~-498.95m G.L. -498.95m~-500.2m	CH/CM/CL CH/CM/CL
岩相	①中粒~粗粒花崗岩(淡桃色、橙色、淡褐色、淡緑色) ②貫入岩(暗灰色)	RMR値	G.L. -496.45m~-498.95m G.L. -498.95m~-500.2m	33 33
風化	α	岩石試料番号	57mボーリング東横坑R2-1(貫入岩), 57mボーリング東横坑2-2(花崗岩)	
変質	1~4	採水試料番号	-	
湧水	滴水			

特記事項

当箇所は57mボーリング東横坑であり、掘進方向はN81°E方向である。横坑観察は切羽から0.8m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩の変質は、割れ目27付近から南西側は程度が強く、有色鉱物の半数以上がクロライトに置き換わる。カリ長石は淡褐色を呈する。割れ目8付近から割れ目27付近までの間は、中程度の変質により、有色鉱物の半数以上がクロライトに置き換わりカリ長石は橙色~淡褐色に変色し、花崗岩は全体に橙色~淡褐色を呈する。割れ目8付近から北東側は変質はほとんど認められず、花崗岩は淡桃色を呈する。割れ目の走向傾斜は、割れ目8から北東側では、NE走向高角度東傾斜とWNW走向高角度北傾斜と南傾斜が主体で認められる。割れ目8付近から割れ目27付近までの間は、NW~WNW走向高角度東~北傾斜とNW走向高角度西~南傾斜が主体で認められる。

割れ目27付近から南西側の割れ目の走向傾斜は、NW~WNW走向高角度北~東傾斜の割れ目が主体で、他にNE走向高角度東傾斜やNW走向高角度東~南傾斜が認められる。割れ目の介在物は、カルサイトとクロライト、淡緑色の粘土、赤褐色の鉱物(ヘマタイトと記載)が認められる。湧水は鏡中央から南側壁にかけて、割れ目17, 25, 27, 28, 33, 34から滴水程度で認められた。岩級区分は、割れ目8付近から北東側では、割れ目間隔が20~30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。割れ目8付近から割れ目27付近までの間は、割れ目間隔が6~20cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることから、CM(C・Ⅳ・1)級と評価した。割れ目27付近から南西側は、割れ目間隔が3~5cm程度で、ハンマーの打撃で濁った音を発する程度の硬さであることから、CL(D・Ⅳ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

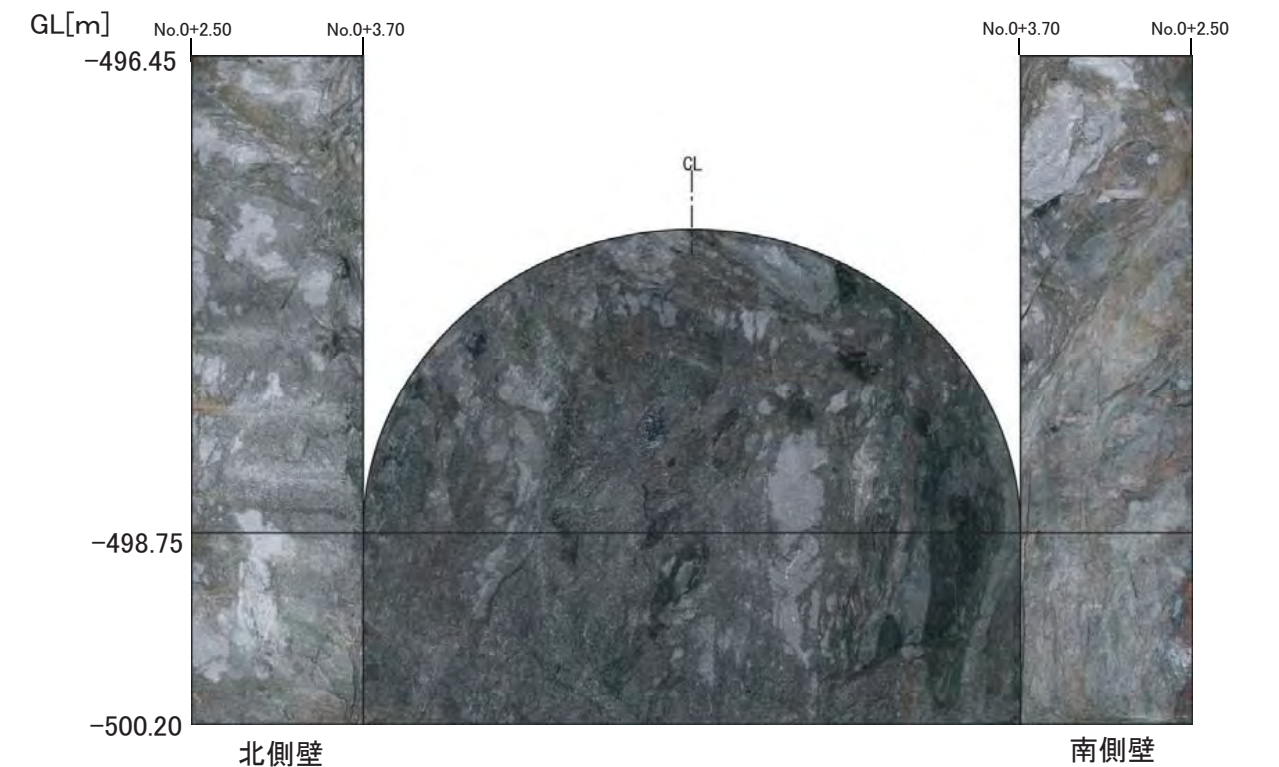
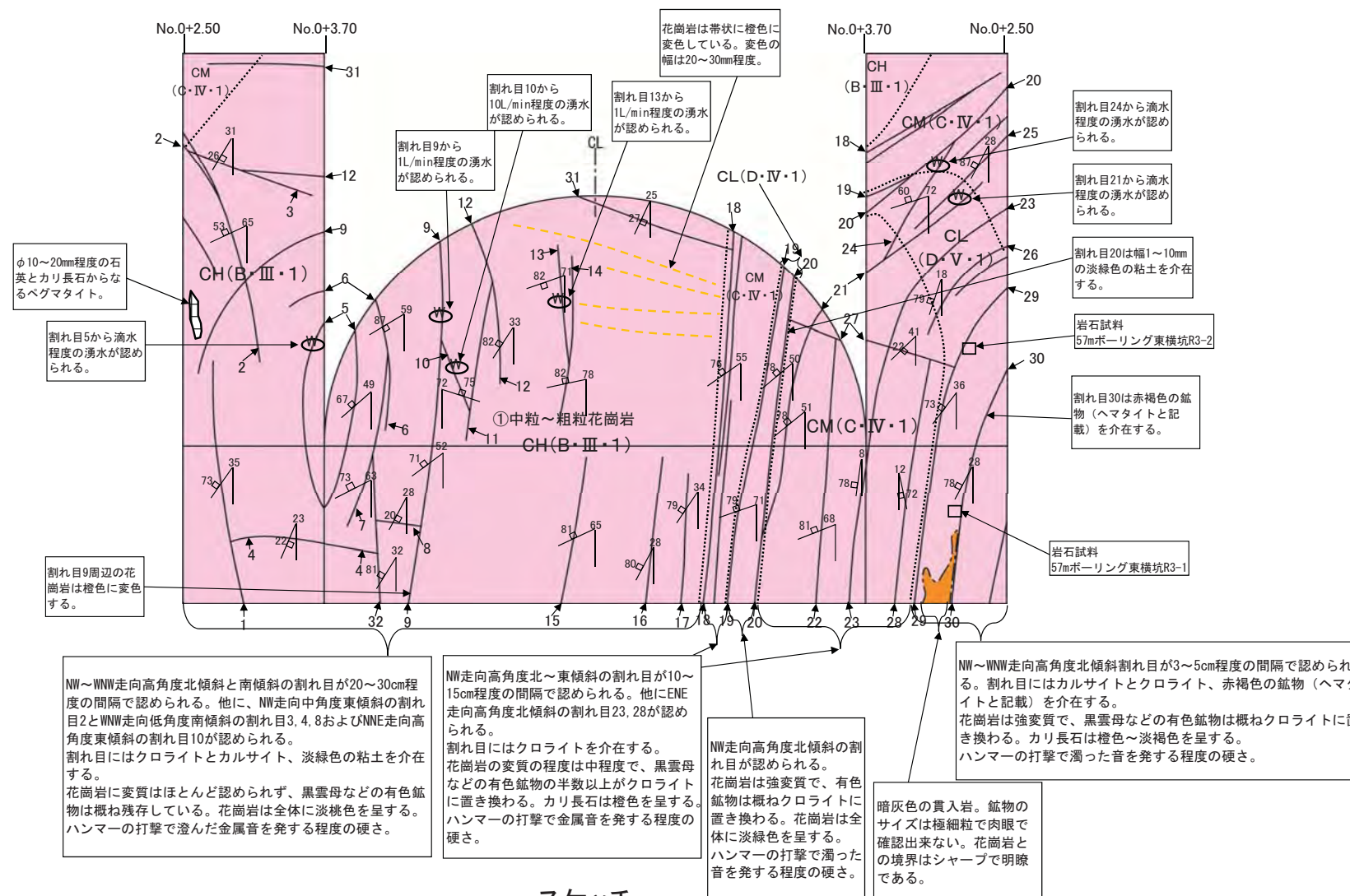
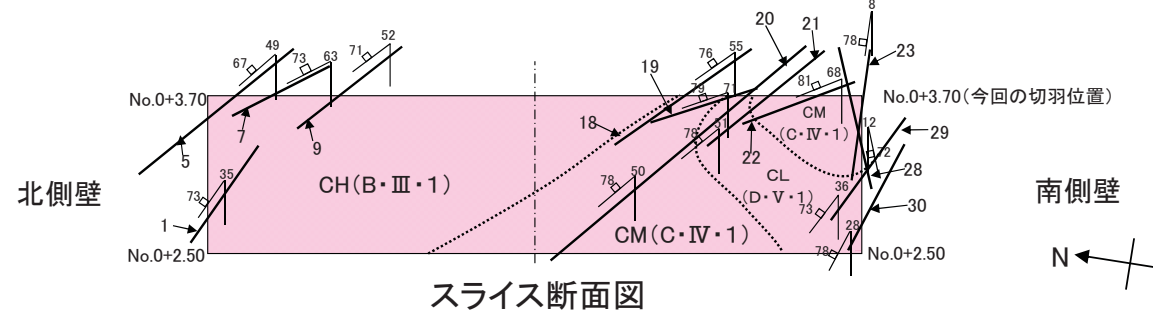
A5-請負-計測工(地質)-130118

シート番号	57mボーリング東横坑3	日時	2013/1/18 15:00~16:30	位置・深度	57mボーリング東横坑3 G.L. -496.5 m~G.L. -500.2 m	観察・撮影者	
-------	--------------	----	--------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	橙色変色	ペグマタイト
----	-----	-----	----------	--------	----	------	--------



可視画像



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -496.45m~-498.95m G.L. -498.95m~-500.2m	CH/CM/CL CH/CM/CL
岩相	①中粒~粗粒花崗岩(淡桃色、橙色、淡褐色、淡緑色) ②貫入岩(暗灰色)	RMR値	G.L. -496.45m~-498.95m G.L. -498.95m~-500.2m	31 44
風化	α	岩石試料番号	57mボーリング東横坑R3-1(貫入岩), 57mボーリング東横坑3-2(花崗岩)	
変質	1~4	採水試料番号	-	
湧水	10L/min			

特記事項

当箇所は57mボーリング東横坑であり、掘進方向はN81°E方向である。横坑観察は切羽から1.2m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩と貫入岩で、花崗岩の岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩の変質は、割れ目19から割れ目20の間と割れ目29から南側は強変質で、有色鉱物のほとんどがクロライトに置き換わる。割れ目18付近から割れ目19付近までの間と割れ目20付近から割れ目29付近までの間は、中程度の変質により、有色鉱物の半数以上がクロライトに置き換わりカリ長石は橙色~淡褐色に変色し、花崗岩は全体に橙色~淡褐色を呈する。割れ目18付近から北側は変質はほとんど認められず、花崗岩は淡桃色を呈する。割れ目の走向傾斜は、割れ目18から北側では、NW~WNW走向高角度北傾斜と南傾斜が主体で、他にNW走向中角度東傾斜のやWNW走向低角度南傾斜およびNNE走向高角度東傾斜が認められる。割れ目18付近から南側の割れ目の走向傾斜は、NW~WNW走向高角度北傾斜が主体で、他にENE走向高角度北傾斜が認められる。割れ目の介在物は、カルサイトとクロライト、淡緑色の粘土、赤褐色の鉱物(ヘマタイトと記載)が認められる。湧水は鏡中央の割れ目9, 10, 13から最大10L/min程度で認められた。他に割れ目5, 21, 24から滴水程度で認められた。岩級区分は、割れ目18付近から北側では、割れ目間隔が20~30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。割れ目18付近から割れ目19付近までの間と割れ目20付近から割れ目29付近までは、割れ目間隔が10~15cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることから、CM(C・Ⅳ・1)級と評価した。割れ目19から割れ目20の間と割れ目29から南側は、割れ目間隔が3~5cm程度で、ハンマーの打撃で濁った音を発する程度の硬さであることから、CL(D・Ⅴ・1)級と評価した。

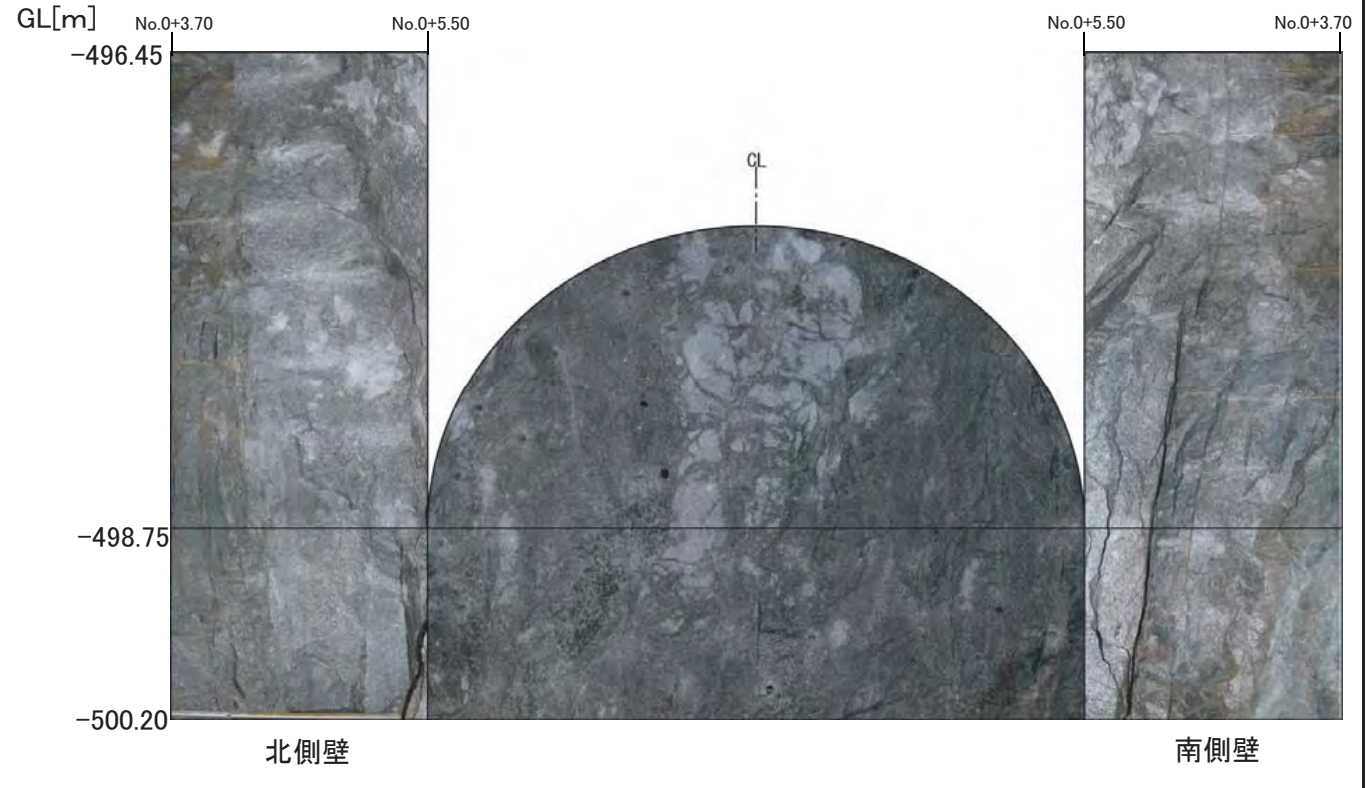
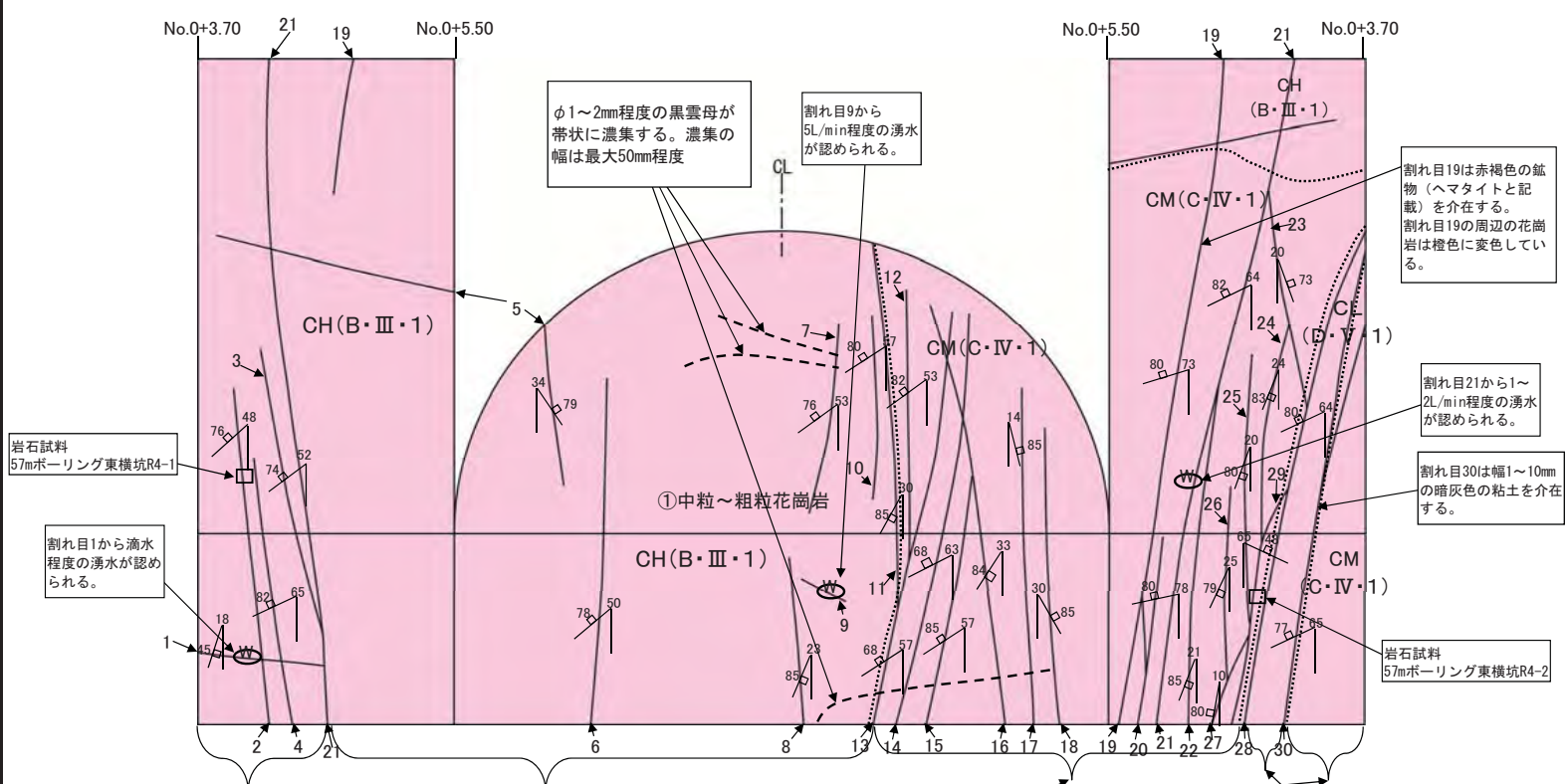
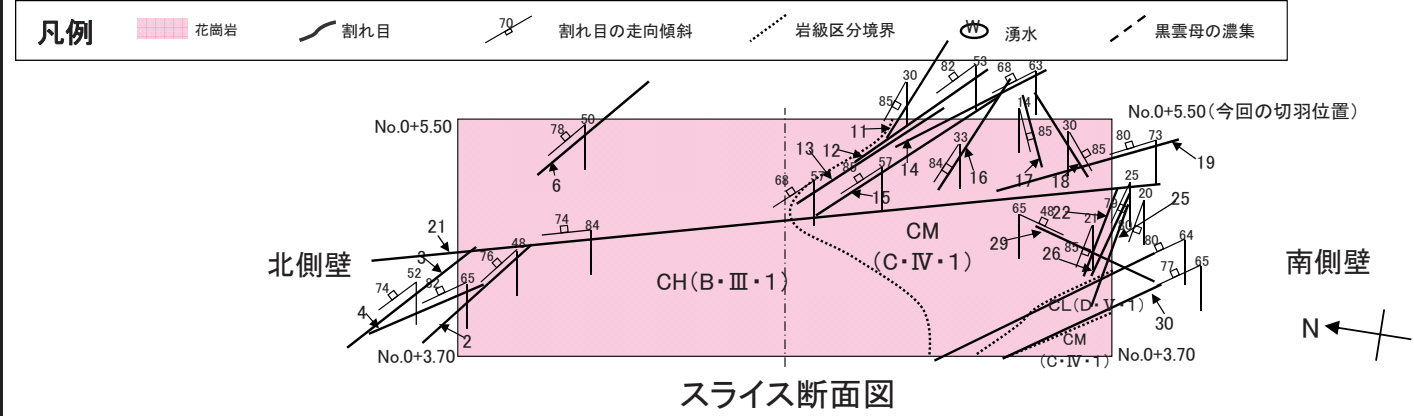
A工区地質記載シート

A5-請負-計測工(地質)-130322

シート番号	57mボーリング東横坑4	日時	2013/3/22 11:00~12:30	位置・深度	57mボーリング東横坑4 G.L. -496.5 m~G.L. -500.2 m	観察・撮影者	
-------	--------------	----	--------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



NW走向高角度北~東傾斜の割れ目が20cm程度の間隔で認められる。他にENE走向中角度南傾斜の割れ目1が認められる。割れ目にはカルサイト、クロライトを介在する。花崗岩の変質の程度は弱~中程度で、カリ長石は橙色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NE走向高角度南傾斜の割れ目とNW走向高角度北傾斜と南傾斜の割れ目が20~60cm程度の間隔で認められる。割れ目にはクロライトとカルサイトを介在する。花崗岩に変質はほとんど認められず、黒雲母などの有色鉱物は概ね残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NW~WNW走向高角度北傾斜と南傾斜の割れ目が6~10cm程度の間隔で認められる。他に、NE走向高角度南傾斜の割れ目17, 18, 23やNNE走向中角度東傾斜の割れ目29が認められる。割れ目にはカルサイトとクロライト、赤褐色の鉱物(ヘマタイトと記載)、淡緑色の粘土を介在する。花崗岩の変質は弱~中程度で、黒雲母などの有色鉱物は一部がクロライトに置き換わる。カリ長石は橙色を呈する。ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さ。

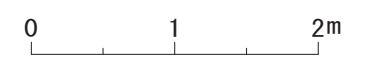
NW走向高角度北傾斜の割れ目が認められる。花崗岩は強変質で、有色鉱物は概ねクロライトに置き換わる。花崗岩は全体に淡緑色~白色を呈する。ハンマーの打撃で濁った音を発する程度の硬さ。

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -496.45m~-498.95m CH/CM/CL G.L. -498.95m~-500.2m CH/CM/CL
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、橙色、淡褐色、淡緑色)	RMR値	G.L. -496.45m~-498.95m 34 G.L. -498.95m~-500.2m 34
風化	α	岩石試料番号	57mボーリング東横坑R4-1 (花崗岩), 57mボーリング東横坑R4-2 (花崗岩)
変質	1~4	採水試料番号	-
湧水	5L/min		

特記事項

当箇所は57mボーリング東横坑であり、掘進方向はN81°E方向である。横坑観察は切羽から1.8m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、花崗岩の岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩の変質は、割れ目28から割れ目30の間付近は強変質で、有色鉱物のほとんどがクロライトに置き換わる。北側壁の割れ目21付近および割れ目13付近から割れ目28付近までの間、および割れ目30付近から南側は、弱~中程度の変質により、有色鉱物の一部~半数程度がクロライトに置き換わりカリ長石は橙色に変色し、花崗岩は全体に橙色を呈する。割れ目13付近から北側は変質はほとんど認められず、花崗岩は淡桃色を呈する。割れ目の走向傾斜は、NW~WNW走向高角度北傾斜と南傾斜が主体で、他にENE走向中角度南傾斜やNE走向高角度南傾斜、NNE走向中角度東傾斜が認められる。

割れ目30は幅1~10mmの暗灰色の粘土(ガウジと判断)を介在することや、前回の観察結果との連続から、せん断割れ目と判断した。割れ目の介在物は、カルサイトとクロライト、淡緑色の粘土、赤褐色の鉱物(ヘマタイトと記載)が認められる。湧水は鏡中央の割れ目9から5L/min程度で、南側壁の割れ目21から1~2L/min程度で認められた。他に割れ目1から滴水程度で認められた。岩級区分は、割れ目13付近から北側では、割れ目間隔が20~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。割れ目13付近から割れ目28付近までの間と割れ目30付近から南側は、割れ目間隔が6~10cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることから、CM(C・Ⅳ・1)級と評価した。割れ目28から割れ目30の間は、割れ目間隔が3~5cm程度で、ハンマーの打撃で濁った音を発する程度の硬さであることから、CL(D・Ⅴ・1)級と評価した。



A工区地質記載シート

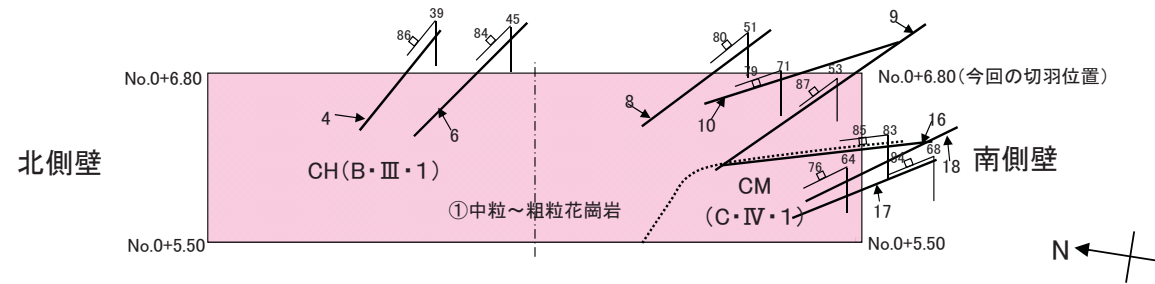
A5-請負-計測工(地質)-130325

シート番号	57mボーリング東横坑5	日時	2013/3/25 15:30~17:00	位置・深度	57mボーリング東横坑5 G.L. -496.45 m~G.L. -500.20 m	観察・撮影者	
-------	--------------	----	--------------------------	-------	---	--------	--

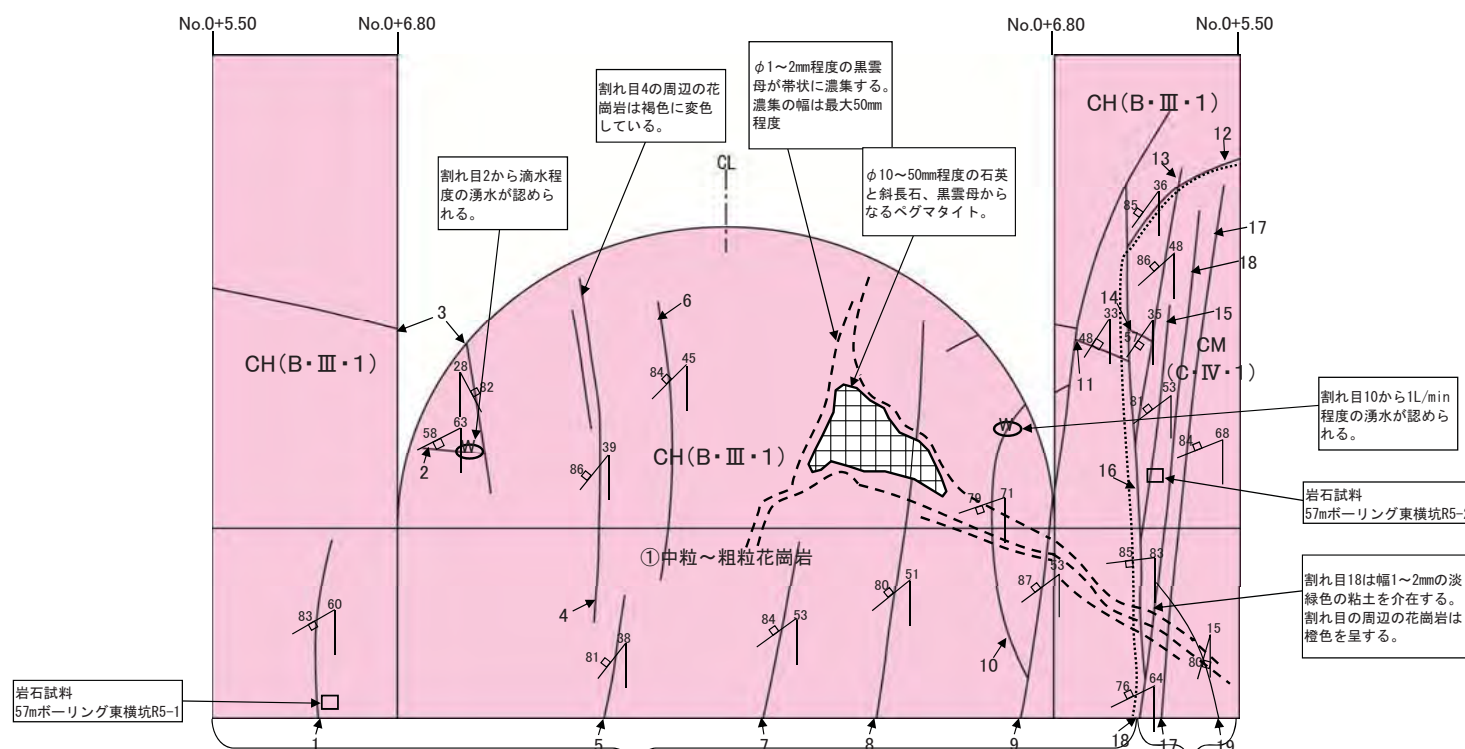
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

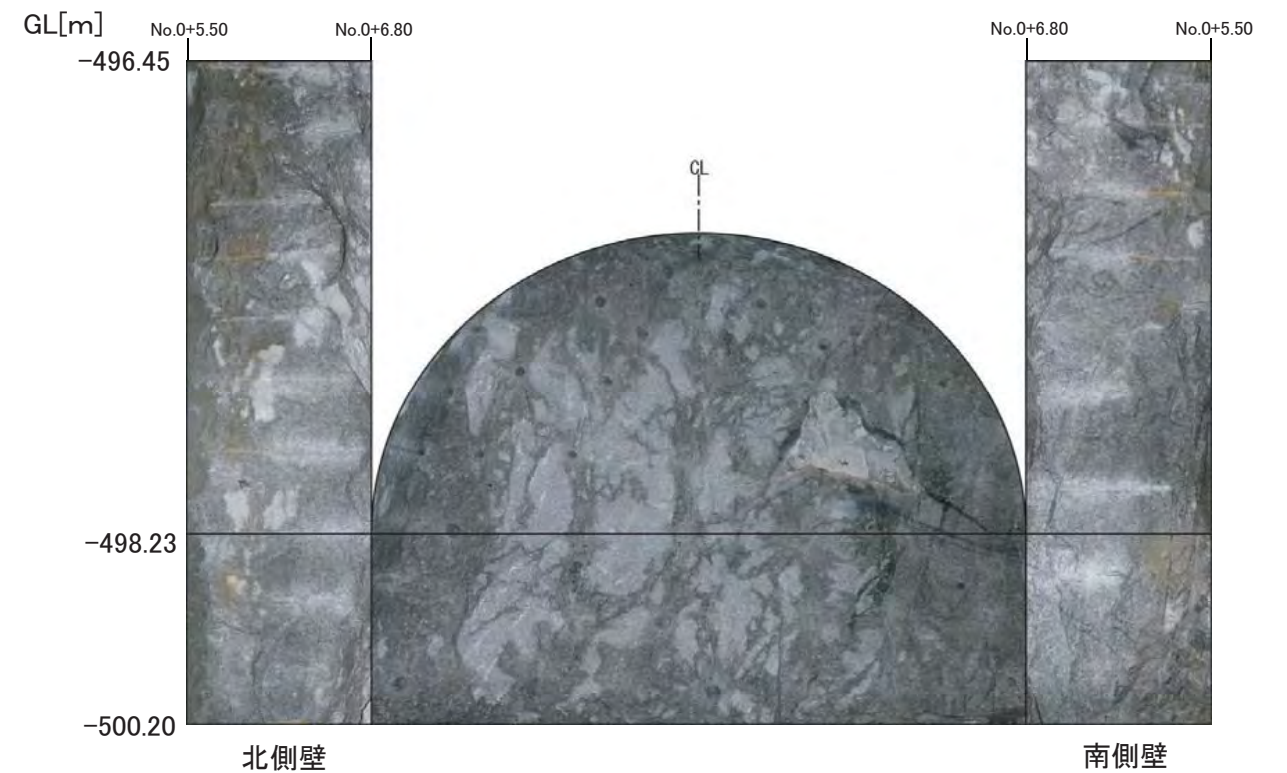
凡例 花崗岩 割れ目 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 湧水 黒雲母の濃集 ベグマタイト



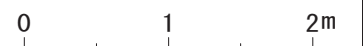
スライス断面図



スケッチ



可視画像



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -496.45m~-498.23m CH/CM G.L. -498.23m~-500.2m CH/CM
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、橙色)	RMR値	G.L. -496.45m~-498.23m 54 G.L. -498.23m~-500.2m 64
風化	α	岩石試料番号	57mボーリング東横坑R5-1 (花崗岩), 57mボーリング東横坑R5-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	1L/min		

特記事項

当箇所は57mボーリング東横坑であり、掘進方向はN81°E方向である。横坑観察は切羽から1.3m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、花崗岩の岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩の変質は、南側壁の割れ目16付近から西側は、弱~中程度の変質により、有色鉱物の一部~半数程度がクロライトに置き換わり、カリ長石は橙色に変色し、花崗岩は全体に橙色を呈する。割れ目16付近から東側では変質がほとんど認められず、有色鉱物はほとんど残存している。花崗岩は淡桃色を呈する。割れ目の走向傾斜は、NW~WNW走向高角度北傾斜と南傾斜が主体で、他にNW走向中角度西~南傾斜、NE走向高角度南傾斜、WNW走向中角度南傾斜が認められる。

割れ目の介在物は、カルサイトとクロライト、淡緑色の粘土が認められる。湧水は鏡右側上部の割れ目10から1L/min程度で、鏡左側の割れ目2から滴水程度で認められた。岩級区分は、割れ目16付近から東側では、割れ目間隔が30~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。割れ目16付近から西側は、割れ目間隔が10~20cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることから、CM(C・Ⅳ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

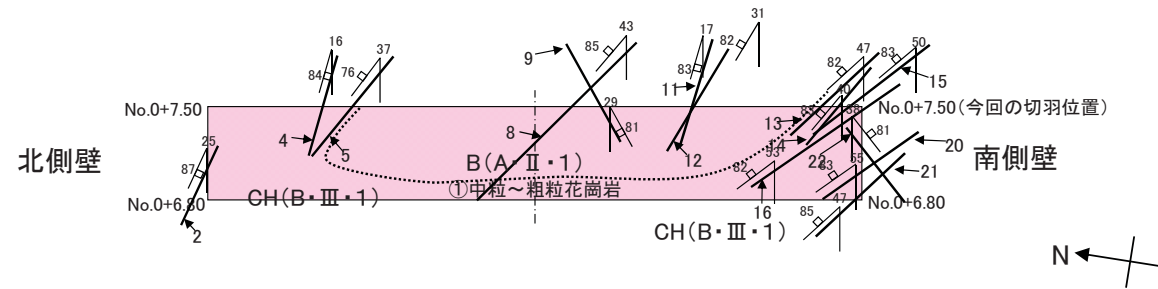
A5-請負-計測工(地質)-130327

シート番号	57mボーリング東横坑6	日時	2013/3/27 11:00~12:30	位置・深度	57mボーリング東横坑6 G.L. -495.93 m~G.L. -499.68 m	観察・撮影者	
-------	--------------	----	--------------------------	-------	---	--------	--

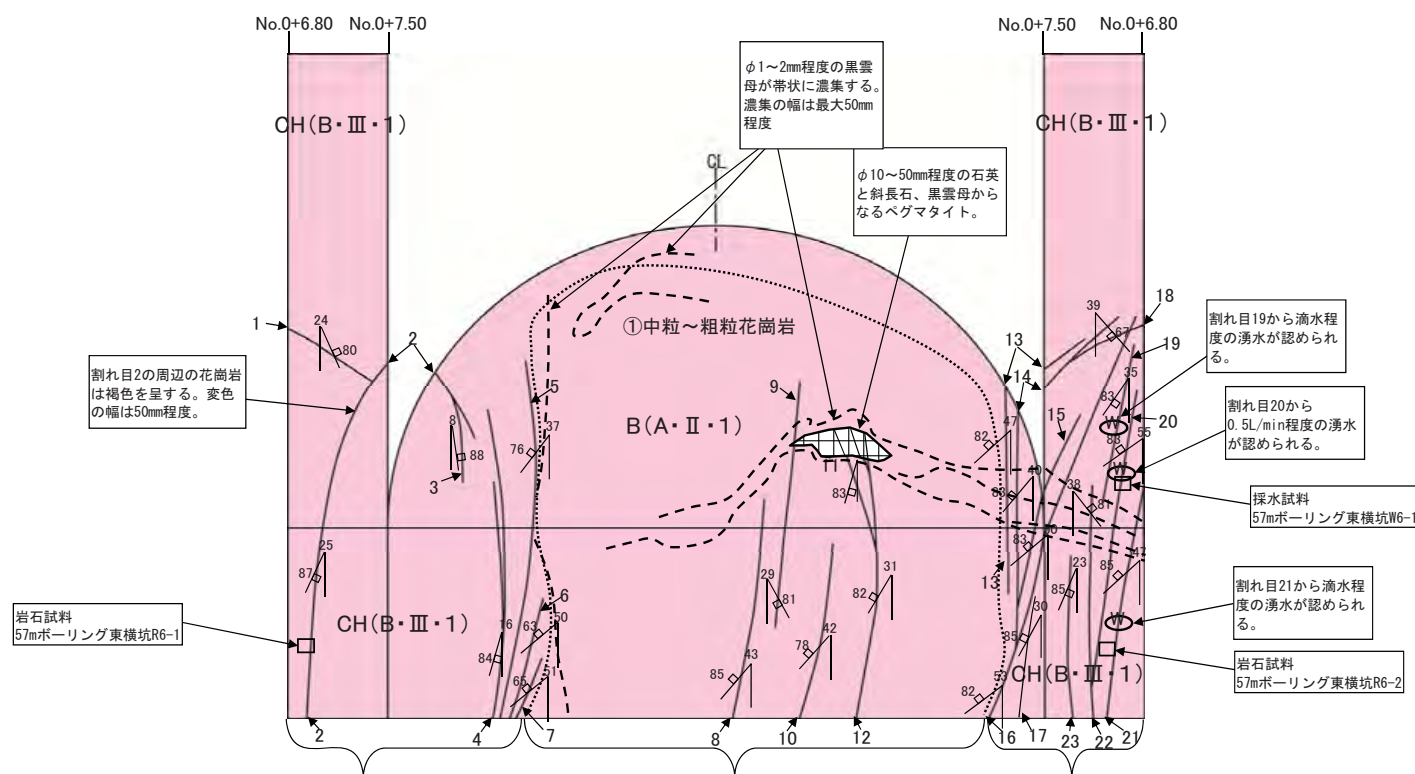
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

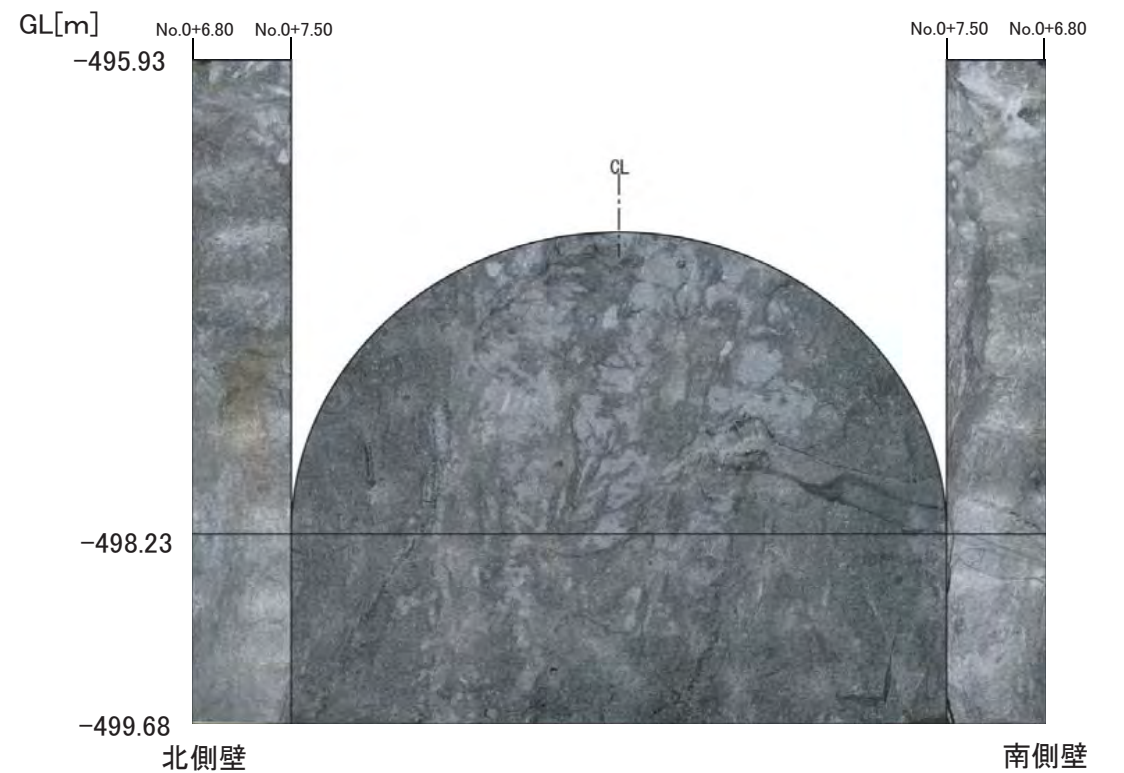
凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	黒雲母の濃集	ペグマタイト
----	-----	-----	----------	--------	----	--------	--------



スライス断面図



スケッチ



可視画像

NW~WNW走向高角度北傾斜と南傾斜の割れ目が20~50cm程度の間隔で認められる。他にNE走向高角度南傾斜の割れ目1,3が認められる。割れ目にはカルサイト、クロライトを介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、有色鉱物はほとんど残存し、カリ長石は淡桃色を呈する。割れ目の周辺では褐色に変色する箇所も認められる。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NW走向高角度北傾斜と西~南傾斜の割れ目が60~100cm程度の間隔で認められる。他に、NE走向高角度北傾斜の割れ目9が認められる。割れ目にはクロライトとカルサイトを介在する。花崗岩に変質はほとんど認められず、黒雲母などの有色鉱物は概ね残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NW走向高角度北~東傾斜と南傾斜の割れ目が20cm程度の間隔で認められる。他にNE走向高角度西傾斜の割れ目18やNE走向高角度東傾斜の割れ目22が認められる。割れ目にはカルサイト、クロライトを介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、有色鉱物はほとんど残存している。カリ長石は淡桃色を呈する。割れ目の周辺の花崗岩には褐色に変色する箇所が認められる。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.93m~-498.23m B/CH G.L. -498.23m~-499.68m B/CH
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (淡桃色)	RMR値	G.L. -495.93m~-498.23m 70 G.L. -498.23m~-499.68m 69
風化	α	岩石試料番号	57mボーリング東横坑R6-1 (花崗岩), 57mボーリング東横坑R6-2 (花崗岩)
変質	1	採水試料番号	57mボーリング東横坑W6-1
湧水	0.5L/min		

特記事項

当箇所は57mボーリング東横坑であり、掘進方向はN81° E方向である。横坑観察は切羽から0.7m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、花崗岩の岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。花崗岩の変質はほとんど認められず、有色鉱物はほとんど残存している。花崗岩は淡桃色を呈する。割れ目の周辺では花崗岩が幅10~50mm程度にわたり褐色に変色している箇所が所々に認められる。割れ目の走向傾斜は、NW~WNW走向高角度東~北傾斜と西~南傾斜が主体で、他にNE走向高角度南~東傾斜、NE走向高角度北~西傾斜が認められる。

割れ目の介在物は、カルサイトとクロライトが認められる。湧水は南側壁の割れ目20から0.5L/min程度で、割れ目19と21から滴水程度で認められた。岩級区分は、割れ目5付近から北側と割れ目13付近から南側では、割れ目間隔が20~50cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・III・1)級と評価した。割れ目5付近から割れ目13付近までの間は、割れ目間隔が60~100cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

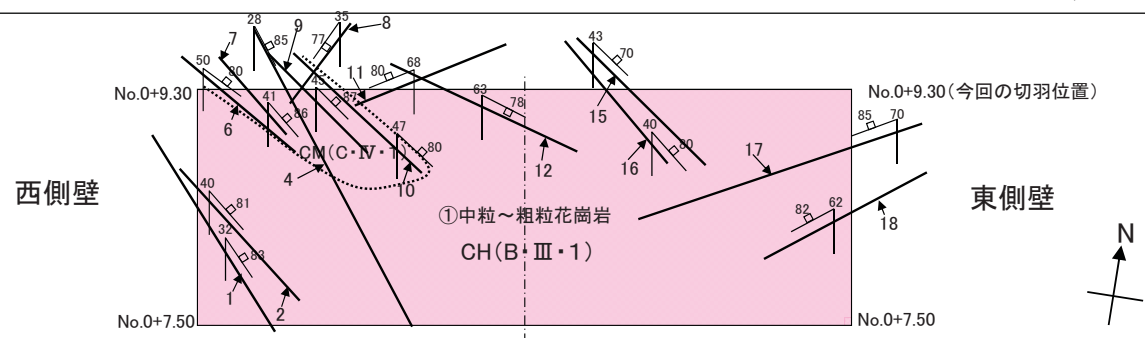
A5-請負-計測工(地質)-130328

シート番号	57mボーリング東横坑7	日時	2013/3/28 16:00~17:30	位置・深度	57mボーリング東横坑7 G. L. -495.93 m ~ G. L. -499.68 m	観察・撮影者	
-------	--------------	----	--------------------------	-------	---	--------	--

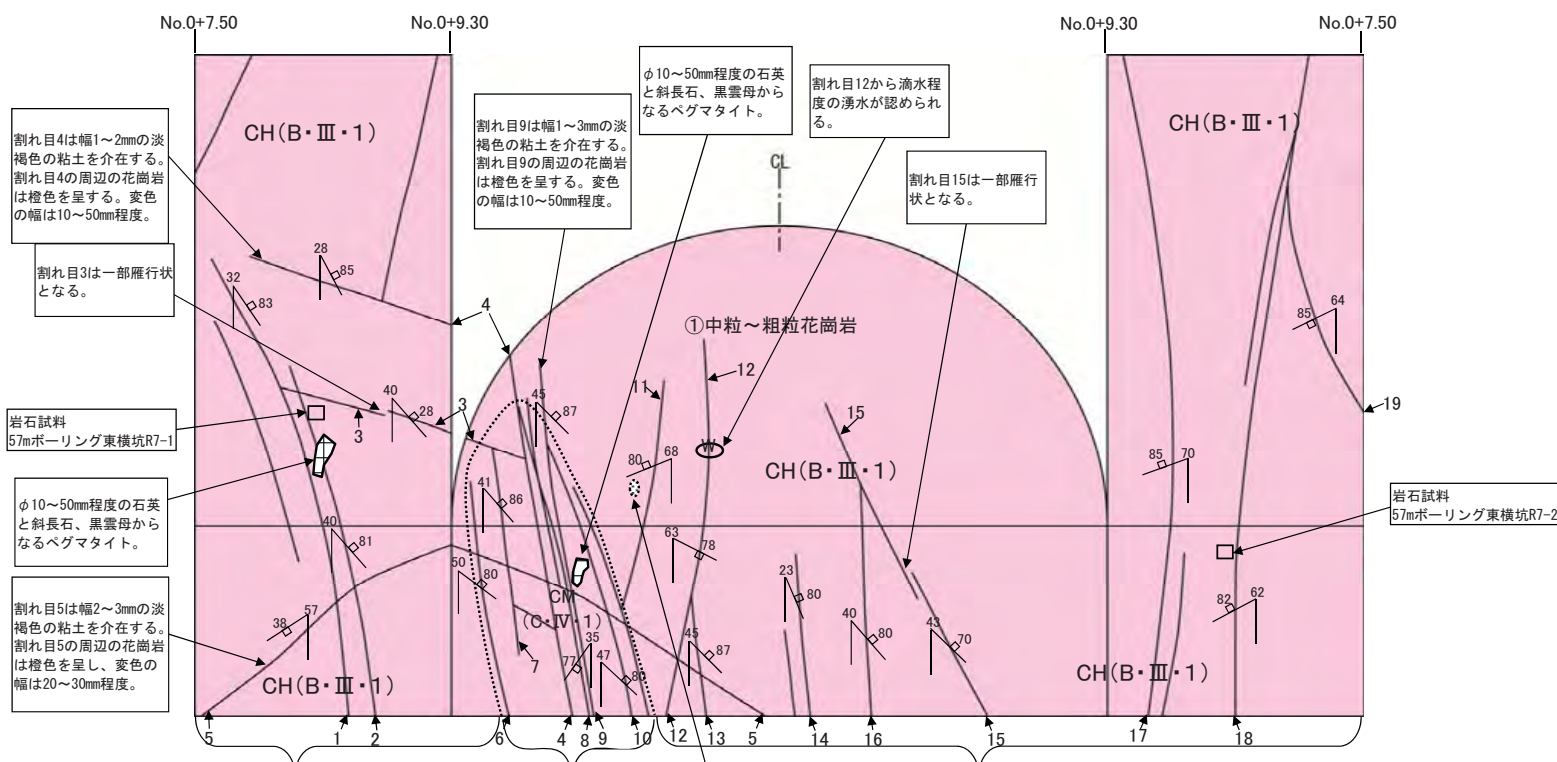
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	黒雲母の濃集	pegmatite
----	-----	-----	----------	--------	----	--------	-----------

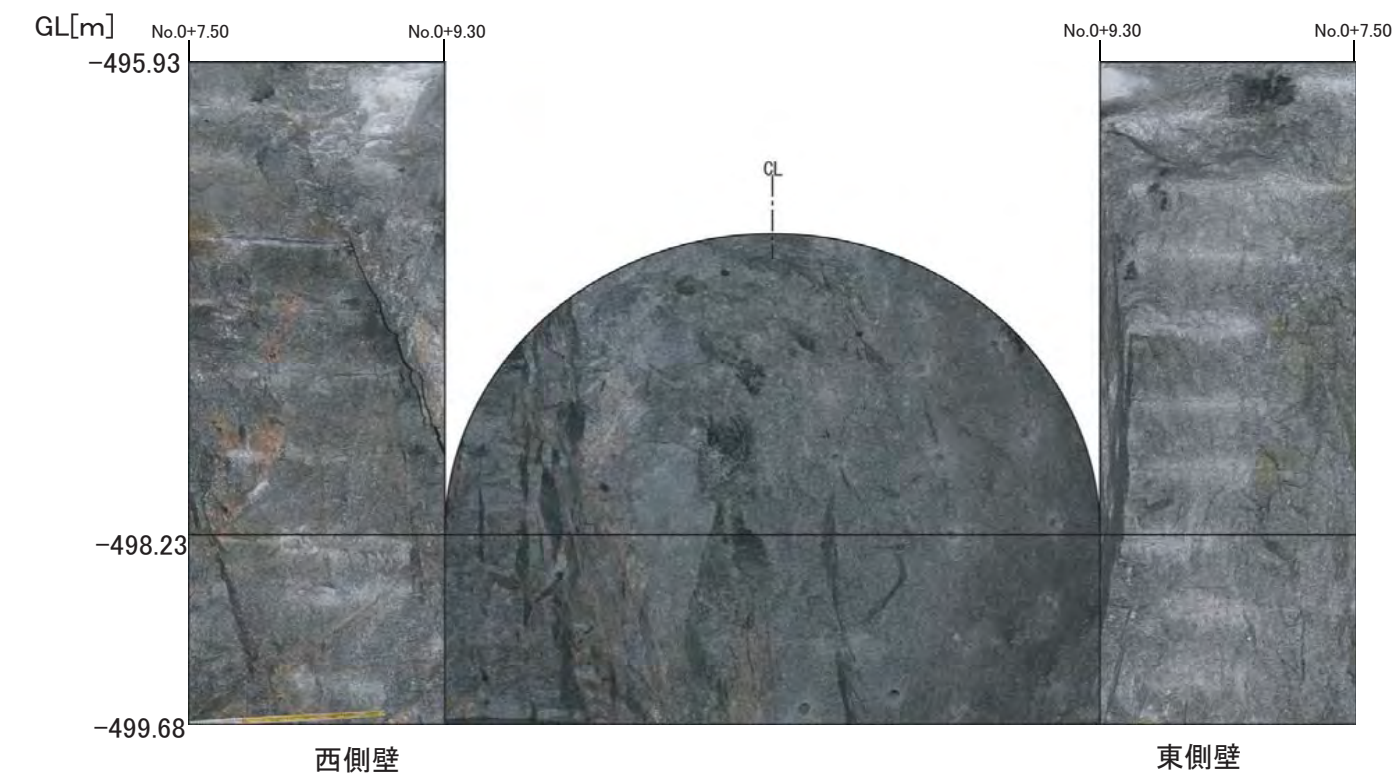


スライス断面図



割れ目4は幅1~2mmの淡褐色の粘土を介在する。割れ目4の周辺の花崗岩は橙色を呈する。変色の幅は10~50mm程度。
 割れ目3は一部雁行状となる。
 岩石試料 57mボーリング東横坑R7-1
 φ10~50mm程度の石英と斜長石、黒雲母からなるpegmatite。
 割れ目5は幅2~3mmの淡褐色の粘土を介在する。割れ目5の周辺の花崗岩は橙色を呈し、変色の幅は20~30mm程度。
 NW走向高角度北~東傾斜の割れ目が20~50cm程度の間隔で認められる。他にNW走向低角度北傾斜の割れ目3、NE走向中角度南傾斜の割れ目5が認められる。割れ目にはカルサイト、クロライト、淡緑色の粘土を介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、有色鉱物はほとんど残存し、カリ長石は淡桃色を呈する。割れ目4の周辺では橙色に変色する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。
 NW走向高角度北~東傾斜の割れ目が10~20cm程度の間隔で認められる。他にNE走向中角度南傾斜の割れ目5やNE走向高角度東傾斜の割れ目8が認められる。割れ目にはカルサイト、クロライト、淡緑色の粘土を介在する。花崗岩の変質は弱~中程度で、有色鉱物は一部がクロライトに置き換わり、カリ長石は橙色を呈する。ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さ。
 黒色のゼノリス。φ50mmほどの円形で、鉱物は細粒で肉眼では確認出来ない。
 NW走向高角度北~東傾斜と西~南傾斜の割れ目が30~60cm程度の間隔で認められる。他に、NE走向高角度北傾斜の割れ目11、17、18とNE走向高角度南傾斜の割れ目19が認められる。割れ目にはクロライトとカルサイトを介在する。花崗岩に変質はほとんど認められず、黒雲母などの有色鉱物は概ね残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

スケッチ



可視画像

岩種	花崗岩	電研式岩級	G. L. -495.93m ~ -498.23m CH/CM G. L. -498.23m ~ -499.68m CH/CM
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (淡桃色、橙色、褐色)	RMR値	G. L. -495.93m ~ -498.23m 58 G. L. -498.23m ~ -499.68m 64
風化	α	岩石試料番号	57mボーリング東横坑7-1 (花崗岩), 57mボーリング東横坑7-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	滴水程度		

特記事項

当箇所は57mボーリング東横坑であり、掘進方向はN9° W方向である。横坑観察は切羽から1.8m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、花崗岩の岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩の変質は、割れ目6付近から割れ目10付近の間で弱~中程度で、有色鉱物の一部がクロライトに置き換わり、カリ長石は橙色を呈する。それ以外の切羽の大部分の花崗岩には、ほとんど変質が認められず、有色鉱物は概ね残存し、花崗岩は淡桃色を呈する。割れ目の周辺では花崗岩が幅10~50mm程度にわたり橙色ないし褐色に変色している箇所が認められる。割れ目の走向傾斜は、NW走向高角度東~北傾斜と西~南傾斜が主体で、他にNW走向低角度北傾斜、NE走向中角度南傾斜、NE走向高角度東~南傾斜、NE走向高角度北傾斜が認められる。

割れ目の介在物は、カルサイトとクロライト、淡緑色の粘土が認められる。湧水は鏡中央の割れ目12から滴水程度で認められた。岩級区分は、割れ目6付近から割れ目10付近の間では、割れ目間隔が10~20cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることから、CM (C・Ⅳ・1) 級と評価した。上記の区間以外の切羽の大半では、割れ目間隔が20~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH (B・Ⅲ・1) 級と評価した。

A工区地質記載シート

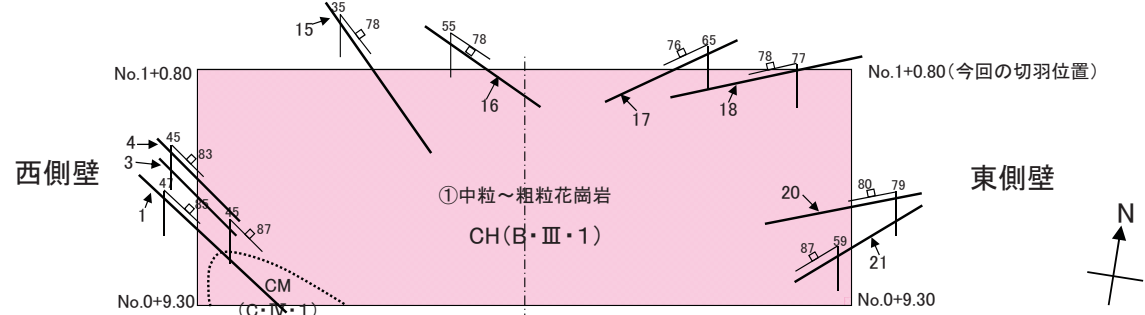
A5-請負-計測工(地質)-130330

シート番号	57mボーリング東横坑8	日時	2013/3/30 10:30~12:00	位置・深度	57mボーリング東横坑8 G.L. -495.93 m~G.L. -499.68 m	観察・撮影者	
-------	--------------	----	--------------------------	-------	---	--------	--

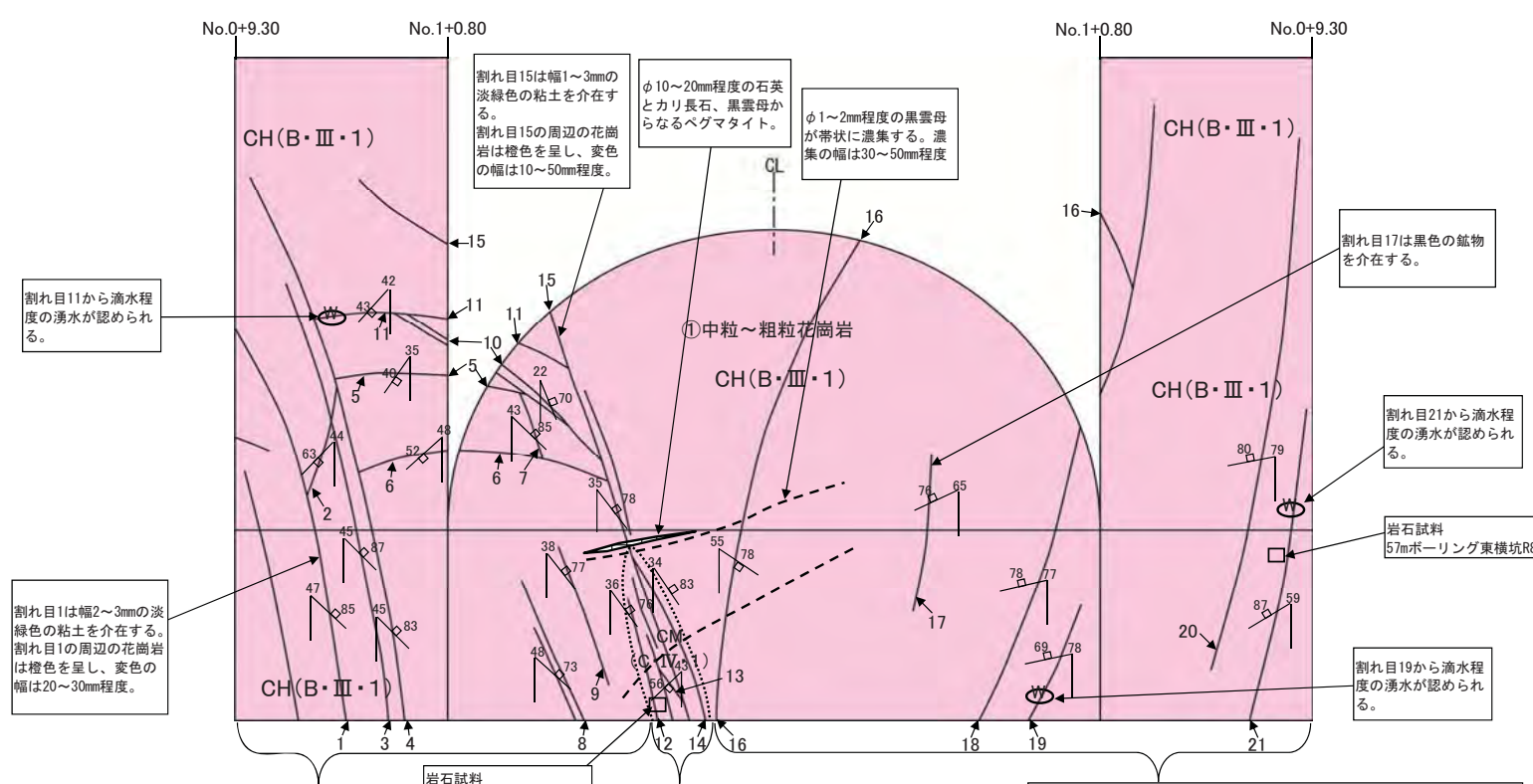
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

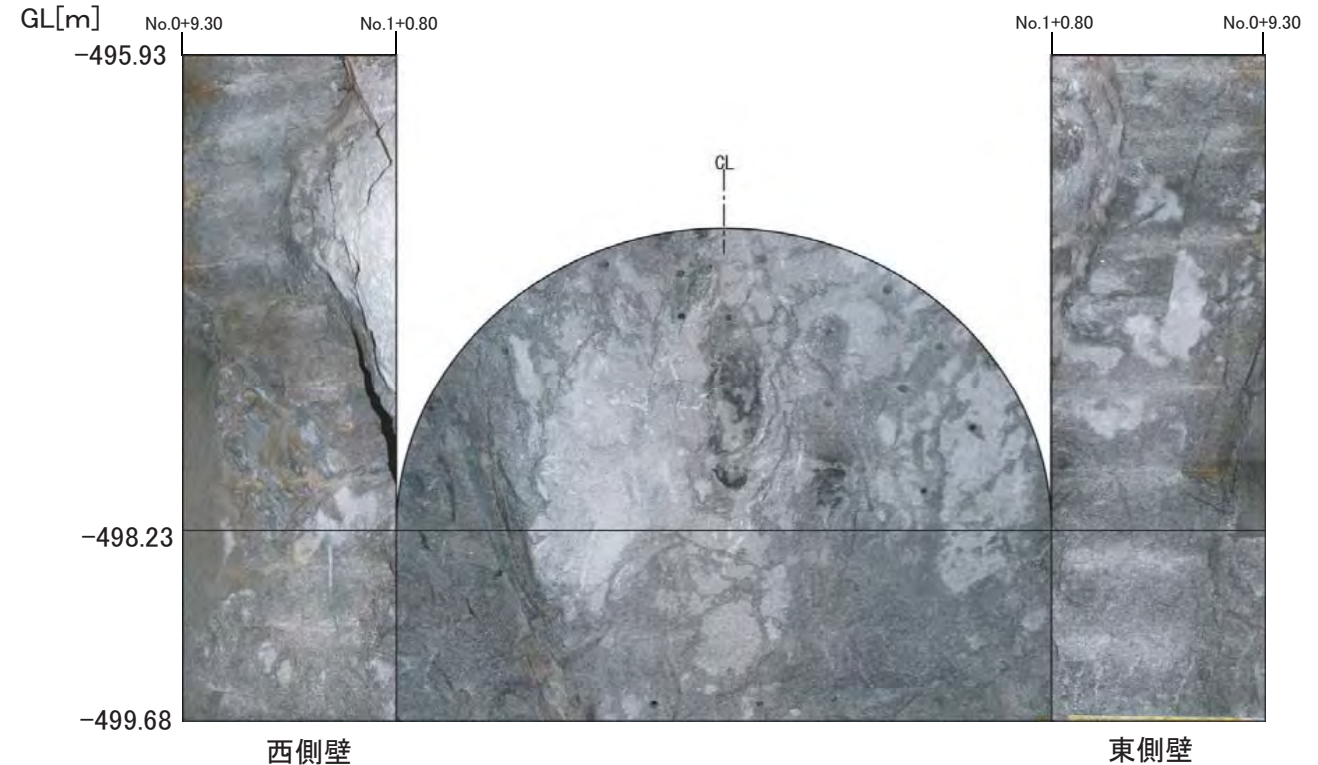
凡例 花崗岩 割れ目 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 湧水 黒雲母の濃集 ベグマタイト



スライス断面図



スケッチ



可視画像



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.93m~-498.23m G.L. -498.23m~-499.68m	CH CH/CM
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、橙色、褐色)	RMR値	G.L. -495.93m~-498.23m G.L. -498.23m~-499.68m	58 58
風化	α	岩石試料番号	57mボーリング東横坑8-1(花崗岩), 57mボーリング東横坑8-2(花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	-	
湧水	滴水程度			

特記事項

当箇所は57mボーリング東横坑であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、花崗岩の岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩の変質は、割れ目12付近から割れ目14付近の間で弱~中程度で、有色鉱物の一部がクロライトに置き換わり、カリ長石は橙色を呈する。それ以外の切羽の大部分の花崗岩には、ほとんど変質が認められず、有色鉱物は概ね残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。割れ目の周辺では花崗岩が幅10~50mm程度にわたり橙色ないし褐色に変色している箇所が認められる。割れ目の走向傾斜は、NW走向高角度北傾斜と南傾斜が主体で、このNW走向の割れ目で止まるNE走向中~高角度東傾斜の割れ目が認められる。鏡右側から東側壁にかけてはNE走向高角度北傾斜の割れ目が認められる。

割れ目の介在物は、カルサイトとクロライト、淡緑色の粘土、黒色の鉱物が認められる。湧水は西側壁の割れ目11、鏡右側脚部の割れ目19、東側壁の割れ目21から滴水程度で認められた。岩級区分は、割れ目12付近から割れ目14付近の間では、割れ目間隔が6~10cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることから、CM(C・Ⅳ・1)級と評価した。上記の区間以外の切羽の大半では、割れ目間隔が30~100cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

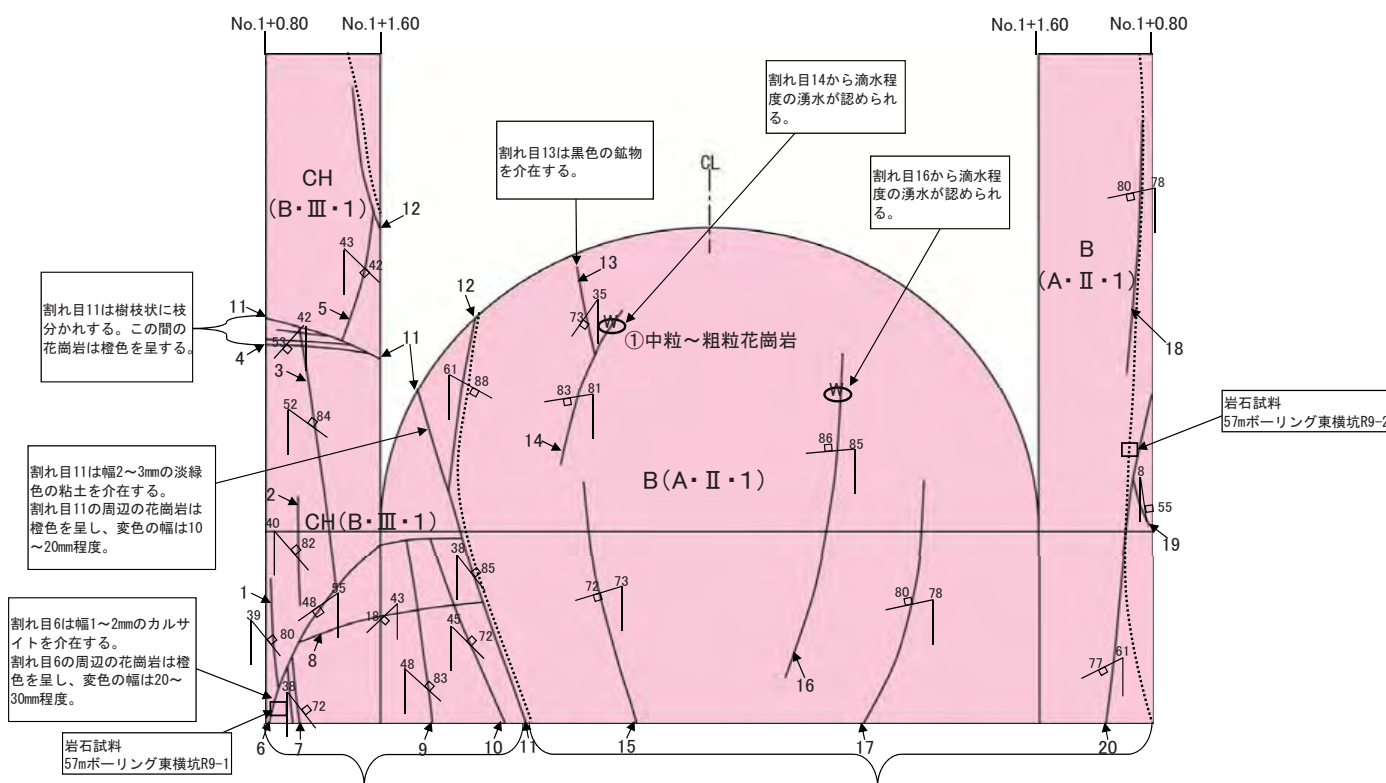
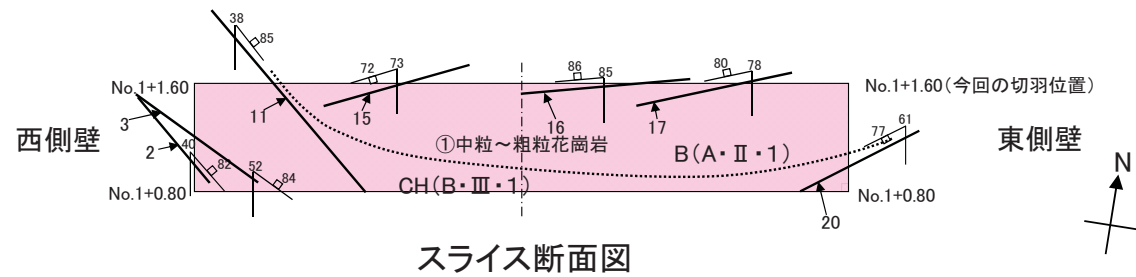
A5-請負-計測工(地質)-130401

シート番号	57mボーリング東横坑9	日時	2013/4/1 10:30~12:00	位置・深度	57mボーリング東横坑9 G.L. -495.93 m~G.L. -499.68 m	観察・撮影者	
-------	--------------	----	-------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

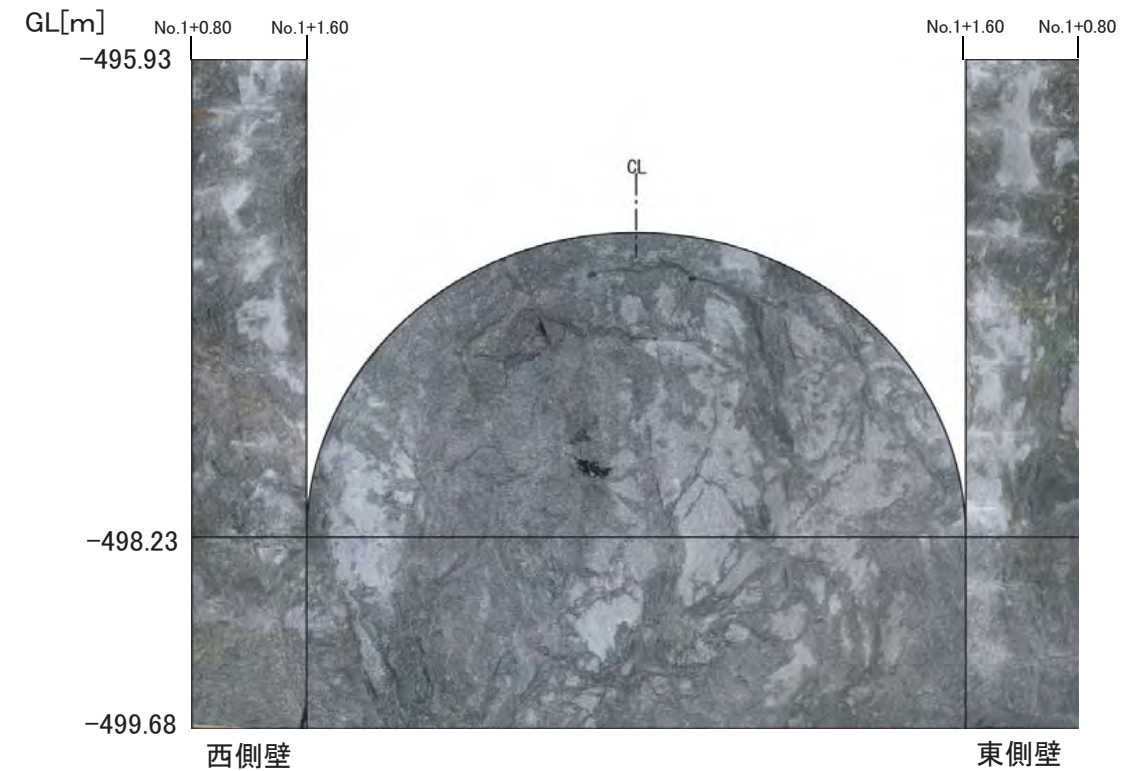
凡例 花崗岩 割れ目 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 湧水



NW走向高角度北傾斜の割れ目が20~50cm程度の間隔で認められ、他にNE走向低~中角度東~南傾斜の割れ目4, 6, 8やNW走向中角度南傾斜の割れ目5が認められる。割れ目にはカルサイト、クロライト、淡緑色や白色の粘土を介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、有色鉱物はほとんど残存し、カリ長石は淡桃色を呈する。割れ目の周辺では橙色や褐色に変色する箇所も認められる。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NE走向高角度東~南傾斜と北傾斜の割れ目が60~100cm程度の間隔で認められる。他にWNW走向高角度南傾斜の割れ目12やNNW走向中角度東傾斜の割れ目19が認められる。割れ目にはクロライトとカルサイト、黒色の鉱物を介在する。花崗岩に変質はほとんど認められず、黒雲母などの有色鉱物は概ね残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

スケッチ



可視画像

0 1 2m

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.93m~-498.23m B/CH G.L. -498.23m~-499.68m B/CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、橙色)	RMR値	G.L. -495.93m~-498.23m 74 G.L. -498.23m~-499.68m 75
風化	α	岩石試料番号	57mボーリング東横坑R9-1 (花崗岩), 57mボーリング東横坑R9-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	滴水程度		

特記事項
当箇所は57mボーリング東横坑であり、掘進方向はN9° W方向である。横坑観察は切羽から0.8m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、花崗岩の岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩の変質は、割れ目4, 6, 8, 11の周辺でカリ長石は橙色化が認められるが、切羽の大部分の花崗岩にはほとんど変質が認められず、有色鉱物は概ね残存し、花崗岩は淡桃色を呈する。割れ目の走向傾斜は、割れ目11から西側ではNW走向高角度北傾斜が主体で、他にNE走向低~中角度東~南傾斜やNW走向中角度南傾斜が認められる。割れ目11から東側では、NE走向高角度東~南傾斜と北傾斜の割れ目が主体で、他にWNW走向高角度南傾斜やNNW走向中角度東傾斜が認められる。割れ目の介在物は、カルサイトとクロライト、淡緑色の粘土、黒色の鉱物が認められる。湧水は鏡中央付近の割れ目14, 16から滴水程度で認められた。岩級区分は、割れ目11付近から西側では、割れ目間隔が20~50cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・III・1)級と評価した。割れ目11付近から東側では、割れ目間隔が60~100cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

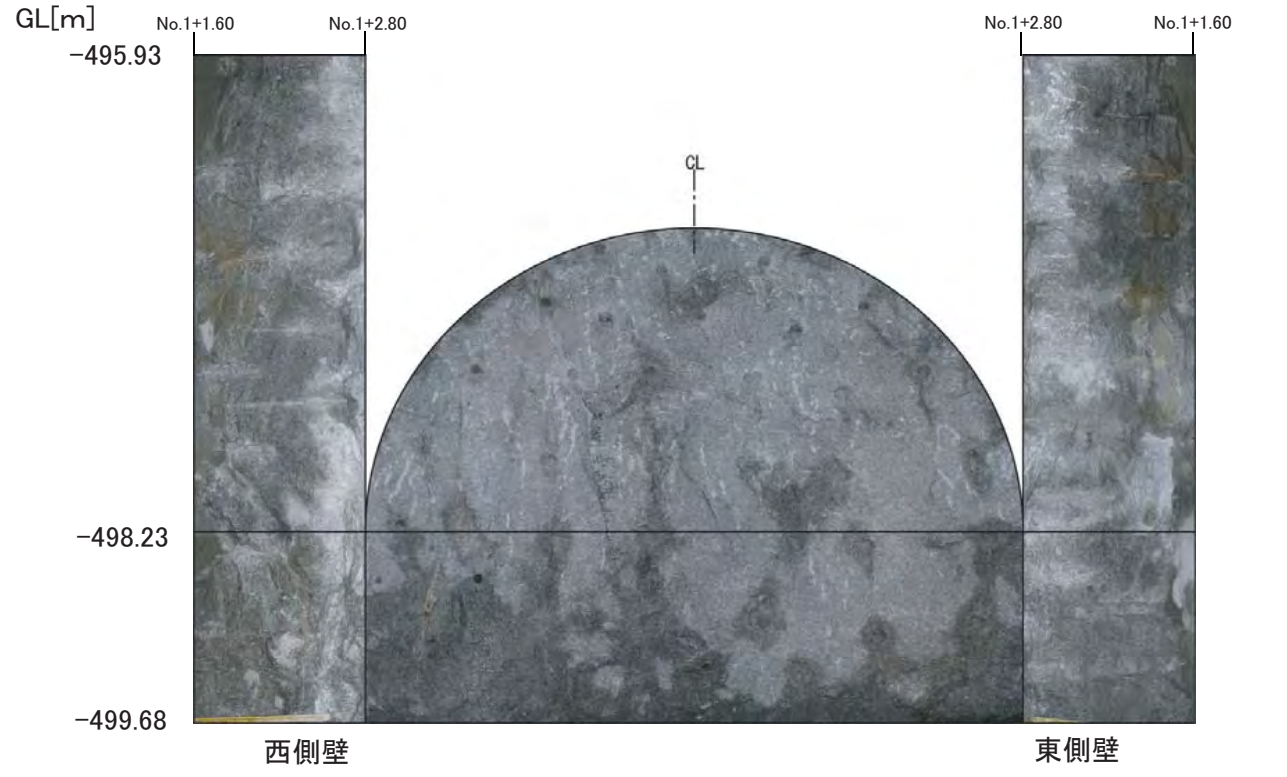
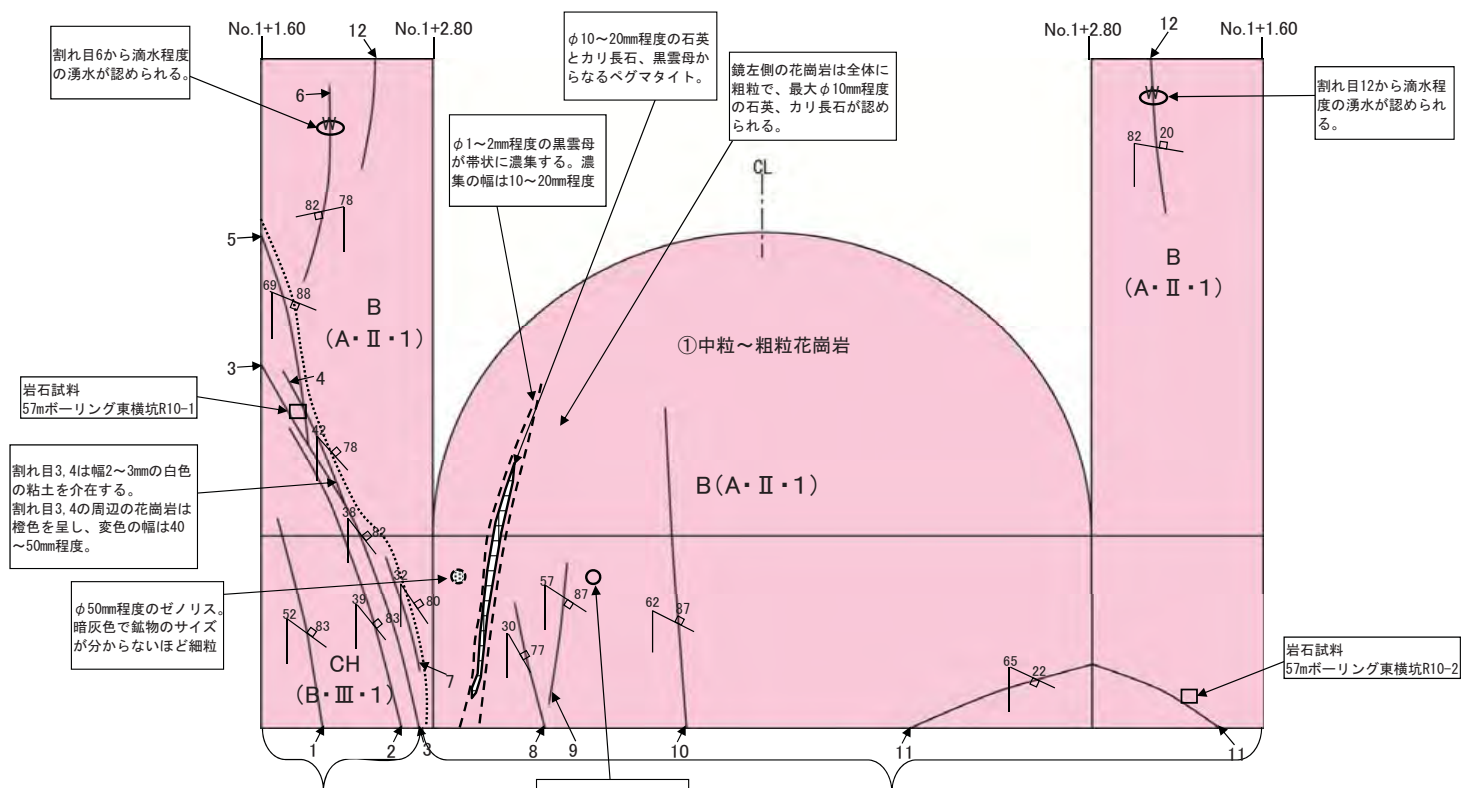
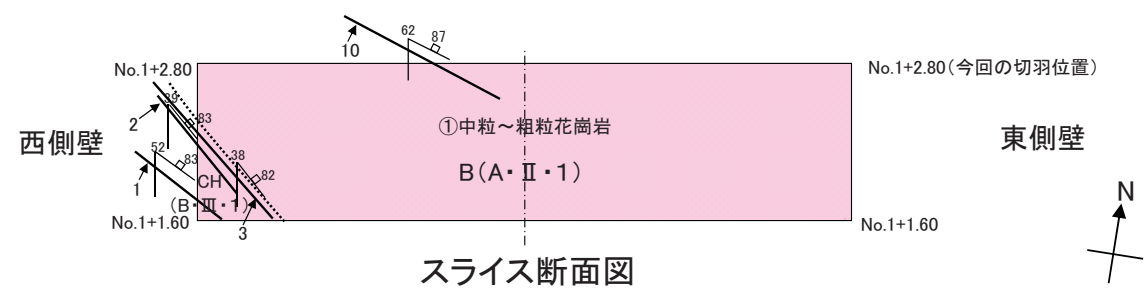
A5-請負-計測工(地質)-130403

シート番号	57mボーリング東横坑10	日時	2013/4/3 10:00~11:30	位置・深度	57mボーリング東横坑10 G.L. -495.93 m~G.L. -499.68 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	-------------------------	-------	--	--------	--

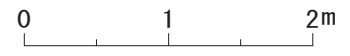
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 割れ目 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 湧水 黒雲母の濃集 ベグマタイト



可視画像



スケッチ

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.93m~-498.23m B/CH G.L. -498.23m~-499.68m B/CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、橙色)	RMR値	G.L. -495.93m~-498.23m 74 G.L. -498.23m~-499.68m 75
風化	α	岩石試料番号	57mボーリング東横坑R10-1 (花崗岩), 57mボーリング東横坑R10-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	滴水程度		

特記事項
当箇所は57mボーリング東横坑であり、掘進方向はN9° W方向である。横坑観察は切羽から1.2m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、花崗岩の岩相は石英の粒径がφ2~10mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩の変質は、割れ目3, 4の周辺でカリ長石は橙色化が認められるが、切羽の大部分の花崗岩にはほとんど変質が認められず、有色鉱物は概ね残存し、花崗岩は淡桃色を呈する。割れ目の走向傾斜は、NW走向高角度東~北傾斜と南傾斜が主体で、他にNW走向高角度南傾斜、NE走向高角度南傾斜やWNW走向低角度南傾斜、ENE走向低角度北傾斜が認められる。割れ目の介在物は、カルサイトとクロライト、白色や淡緑色の粘土が認められる。湧水は天端付近の割れ目6, 12から滴水程度で認められた。岩級区分は、割れ目3付近から西側では、割れ目間隔が20~30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH (B・III・1) 級と評価した。割れ目3付近から東側では、割れ目間隔が60~100cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B (A・II・1) 級と評価した。

A工区地質記載シート

A5-請負-計測工(地質)-130404

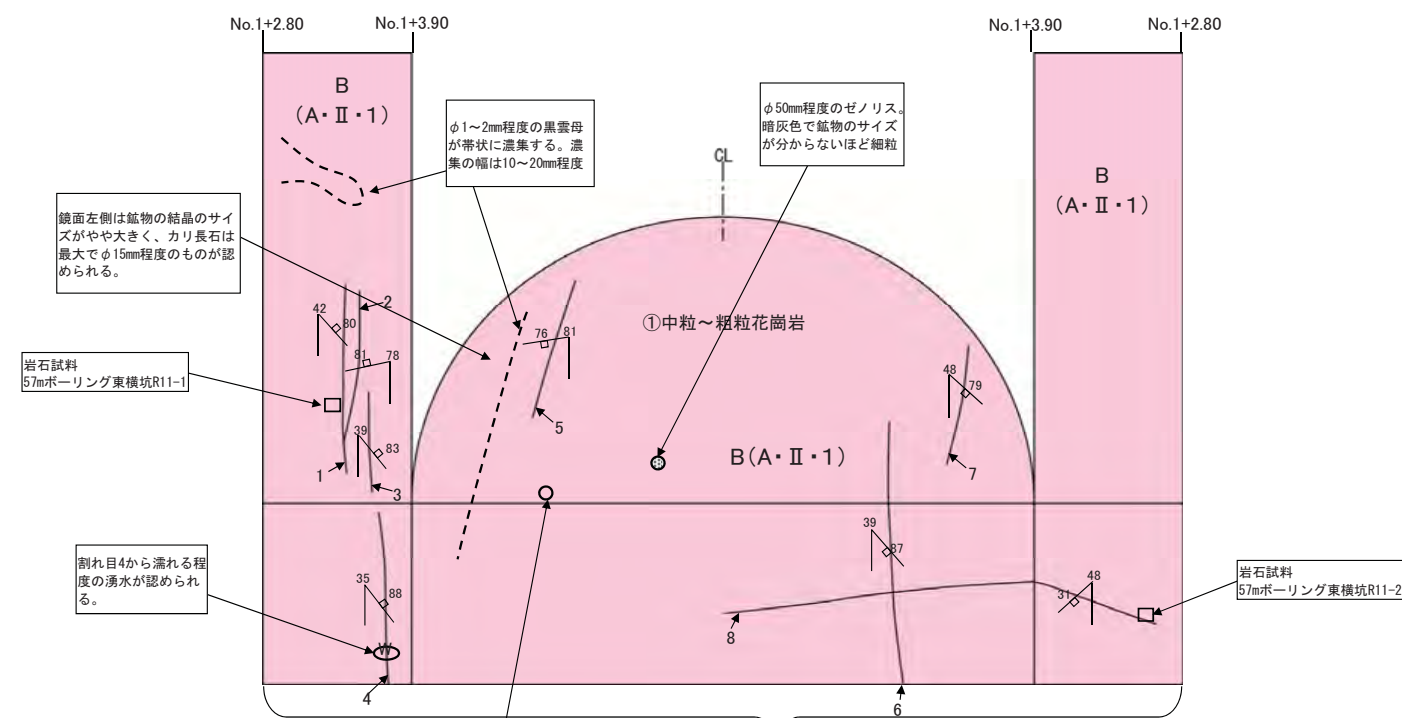
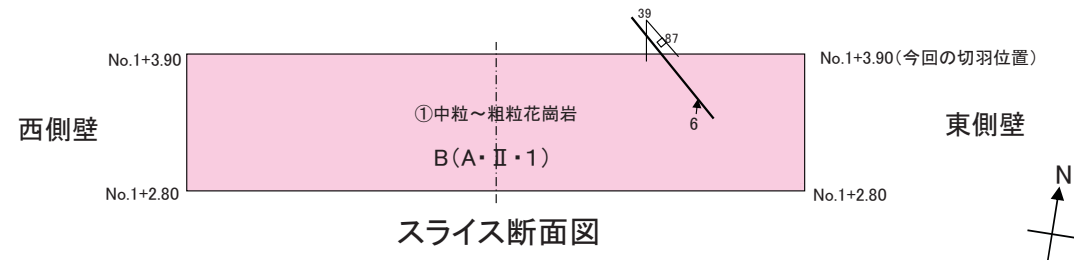
シート番号	57mボーリング東横坑11	日時	2013/4/4 14:00~15:30	位置・深度	57mボーリング東横坑11 G.L. -495.93 m~G.L. -499.68 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	-------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

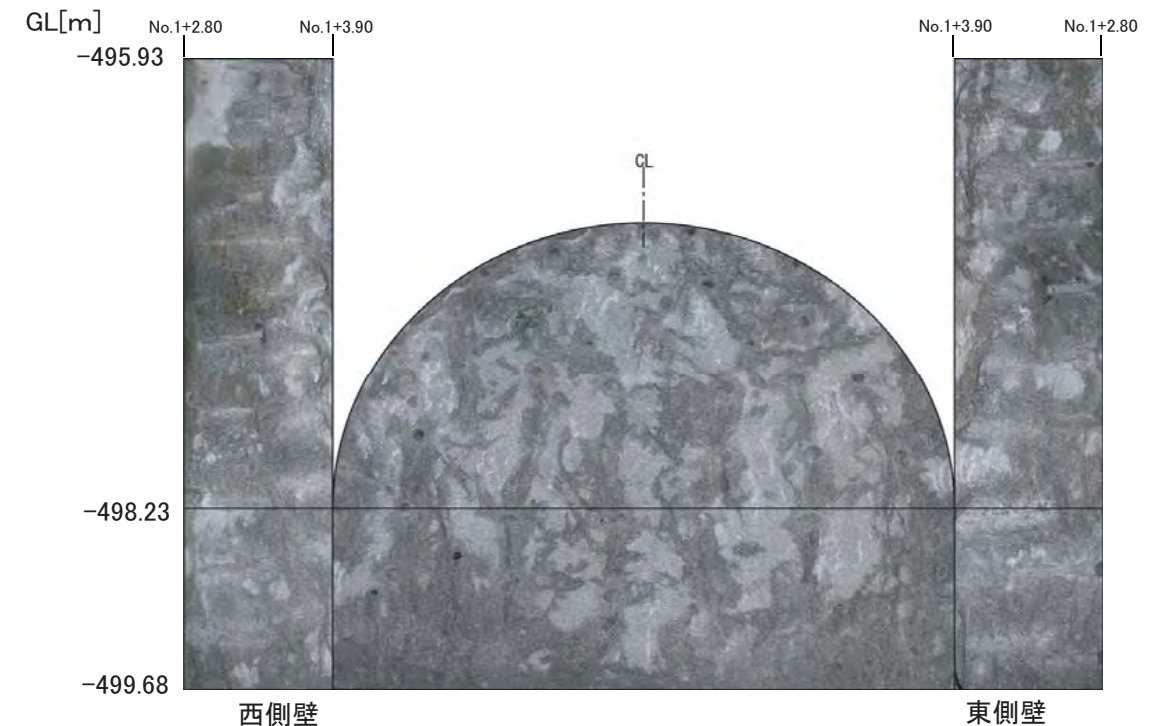
請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例

	花崗岩		割れ目		割れ目の走向傾斜		岩級区分境界		湧水		黒雲母の濃集
--	-----	--	-----	--	----------	--	--------	--	----	--	--------



NW走向高角度北~東傾斜と南傾斜の割れ目とNE走向高角度北傾斜と南傾斜の割れ目が60~100cm程度の間隔で認められる。他にNE走向高角度東傾斜の割れ目8が認められる。割れ目にはクロライトとカルサイトを介在する。花崗岩に変質はほとんど認められず、黒雲母などの有色鉱物は概ね残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。



可視画像



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.93m~-498.23m G.L. -498.23m~-499.68m	B B
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色)	RMR値	G.L. -495.93m~-498.23m G.L. -498.23m~-499.68m	93 85
風化	α	岩石試料番号	57mボーリング東横坑R11-1 (花崗岩), 57mボーリング東横坑R11-2 (花崗岩)	
変質	1	採水試料番号	-	
湧水	濡れる程度			

特記事項

当箇所は57mボーリング東横坑であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.1m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、花崗岩の岩相は石英の粒径がφ2~10mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。鏡面の左側は鉱物のサイズがやや大きく、最大でφ15mm程度のカリ長石が点在している。花崗岩の変質はほとんど認められない。割れ目の走向傾斜は、NW走向高角度北~東傾斜と南傾斜の割れ目とNE走向高角度北傾斜と南傾斜が主体で、他にNE走向高角度東傾斜が認められる。

割れ目の介在物は、カルサイトとクロライトが認められる。湧水は西側壁下部の割れ目4から濡れる程度で認められた。岩級区分は、割れ目間隔が60~100cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

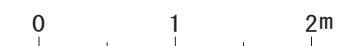
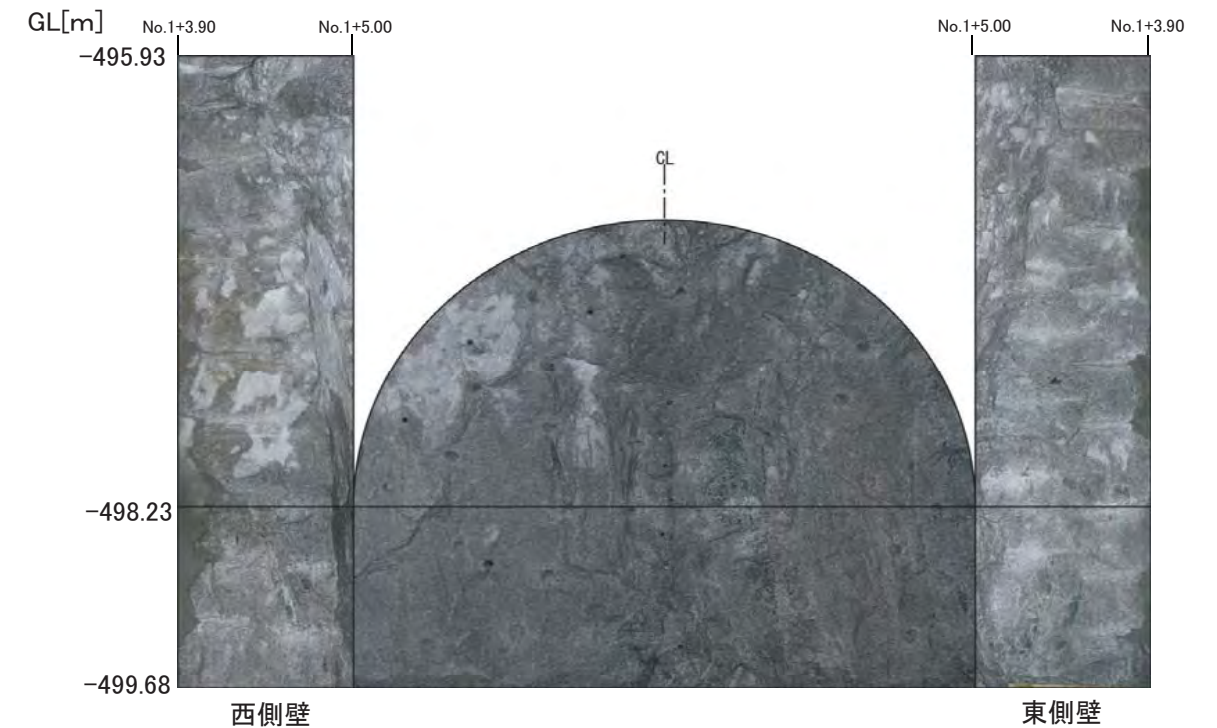
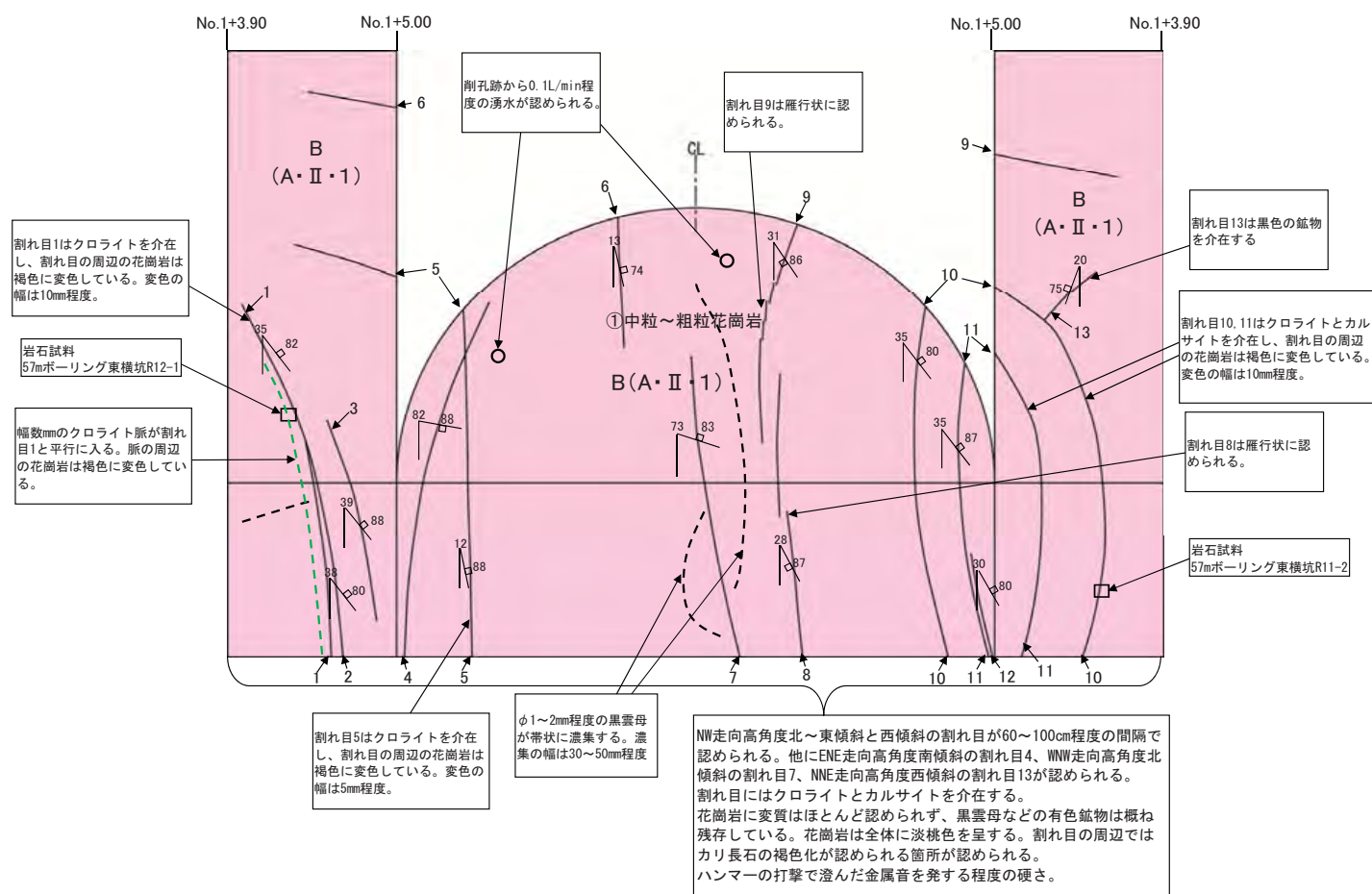
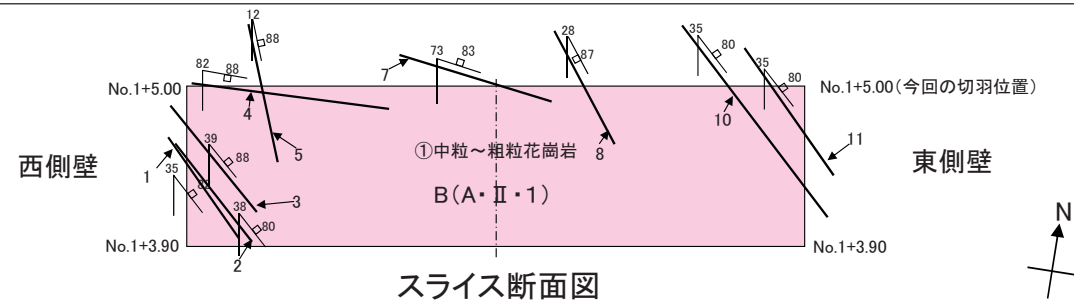
A5-請負-計測工(地質)-130405

シート番号	57mボーリング東横坑12	日時	2013/4/5 16:00~17:30	位置・深度	57mボーリング東横坑12 G.L. -495.93 m~G.L. -499.68 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	-------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 割れ目 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 湧水 黒雲母の濃集 クロライト脈



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.93m~-498.23m B G.L. -498.23m~-499.68m B
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色)	RMR値	G.L. -495.93m~-498.23m 93 G.L. -498.23m~-499.68m 93
風化	α	岩石試料番号	57mボーリング東横坑R12-1 (花崗岩), 57mボーリング東横坑R12-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	無し		

特記事項

当箇所は57mボーリング東横坑であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.1m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、花崗岩の岩相は石英の粒径がφ2~10mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。最大でφ20mm程度のカリ長石が点在している。
花崗岩の変質はほとんど認められない。割れ目の周辺ではカリ長石が褐色に変色している箇所が認められる。
割れ目の走向傾斜は、NW走向高角度北~東傾斜と西傾斜が主体で、他にENE走向高角度南傾斜やWNW走向高角度北傾斜、NNE走向高角度西傾斜が認められる。

割れ目の介在物は、カルサイトとクロライト、黒色の鉱物(マンガンと記載)が認められる。
湧水は認められなかった。
岩級区分は、割れ目間隔が60~100cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。